10 月 21 日（水）9：30～12：45　A 会場

2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震，強震動・地震災害

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長　松村正三・田所敬一・川辺秀憲・三宅弘恵

9：30　A11-01　東海地震推定固着域における応力集中の現況
°松村正三（防災科研）

9：45　A11-02　2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震　―同時震源再決定による駿河湾地域の地震活動の検討―
°原田智也（東大/地震研）・三好崇之（防災科研）・石橋克彦

10：00　A11-03　2009 年駿河湾の地震が東海地震に与える影響：クーロン応力変化による評価
°エネスク　ボグダン・浅野陽一・松原　誠・汐見勝彦・鈴木亘・木村武志・三好崇之・小原一成・青井　真（防災科研）

10：15　A11-04　2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震の震央近傍における海底地殻変動観測
°田所敬一・杉本慎吾・渡部　豪・奥田　隆（名古屋大学）・生田領野（静岡大学）・佐柳敬造（東海大学）

10：30　A11-05　2009 年 8 月 11 日に駿河湾で発生した地震の津波モデリング
°藤井雄士郎（建築研国地 C）・佐竹健治（東大地震研）

10：45　休憩

11：00　A11-06　近地強震記録による 2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震の震源過程
°鈴木　亘・青井　真（防災科研）・関口春子（京大防災研）

11：15　A11-07　2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震（MJ 6.5）の震源モデルと強震動シミュレーション
°浅野公之・岩田知孝（京大防災研）

11：30　A11-08　2009 年駿河湾の地震の強震動と震源過程
°横田裕輔・纐纈一起・三宅弘恵・塚越　大・石瀬素子・坂上　実（東大地震研）

11：45　A11-09　2009 年駿河湾の地震（Mj 6.5）の震源のモデル化
°川辺秀憲・釜江克宏・上林宏敏（京大原子炉）

12：00　A11-10　南海・東南海・東海地震の連動発生による強震動と津波―1707 年宝永地震の震源モデルの再評価―
°古村孝志・今井健太郎（東大情報学環）

12：15　A11-11　地震ハザードステーション J-SHIS による全国地震動予測地図の公開
°藤原広行・河合伸一・森川信之（防災科研）・成田　章（MSS）

12：30　A11-12　宮城県沖地震の震源モデルと強震動予測
°三宅弘恵・纐纈一起・木村武志・引間和人・古村孝志・増田　徹（東大地震研）・鈴木晴彦・甲斐田康弘（応用地質）

10 月 21 日（水）　9：30～12：45　B 会場

地殻構造

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長　高橋　努・飯高　隆・阿部信太郎・汐見勝彦

9：30　B11-01　マルコフ近似法に基づく最大振幅のインバージョン解析から推定した東北日本における内部減衰構造
°高橋　努（海洋研究開発機構）

9：45　B11-02　中部東北日本前弧下に沈み込む太平洋スラブの地震波速度構造
°東　龍介・日野亮太・伊藤喜宏・鈴木健介（東北大・理・予知セ）

＊は招待講演

10：00　B11-03　宮城県前弧域の地震波速度構造と地震活動
°山本揚二朗（海洋機構）・日野亮太（東北大予知）・篠原雅尚（東大地震研）・藤江　剛・三浦誠一・小平秀一（海洋機構）

10：15　B11-04　海底地震計記録を用いた地震波干渉法による日本海溝陸側斜面下の不均質構造推定の試み
°伊藤喜宏（東北大・理）・日野亮太（東北大・理）・鈴木秀市（東北大・理）・山田知朗（東大地震研）・篠原雅尚（東大地震研）・金沢敏彦（東大地震研）

10：30　B11-05　S 波偏向異方性の周波数依存性から見た異方性の原因の解明
°飯高　隆（東大地震研）・古村孝志（東大地震研）

10：45　B11-06　屈折法・広角反射法による糸魚川―静岡構造線断層帯中部の上部地殻構造の解明
°小林里紗・岩崎貴哉（東大地震研）・池田安隆（東大理学部）・伊藤谷生（千葉大）・狩野謙一（静岡大）・佐藤比呂志（東大地震研）・東中基倫・阿部　進・須田茂幸・川中　卓（地科研）

11：00　休憩

11：15　B11-07　1984 年長野県西部地震震源域における浅部地殻構造の変形について
°阿部信太郎（地震予知振興会）・青柳恭平（電中研）

11：30　B11-08　稠密地震観測データを用いた長野県西部地域の震源分布と地震波速度構造
°土井一生（京大防災研）・野田俊太（鉄道総研）・飯尾能久（京大防災研）・堀内茂木・関口渉次（防災科研）

11：45　B11-09　稠密 AMT/MT 観測データによる長野県西部群発地震域の 3 次元比抵抗構造
°吉村令慧・大志万直人（京大防災研）・笠谷貴史（JAMSTEC）・飯尾能久（京大防災研）・小村健太朗（防災科研）

12：00　B11-10　紀伊半島下の地震波速度不連続構造とスラブ形状―稠密リニアアレイ観測データを用いたレシーバ関数解析―
°澁谷拓郎（京大防災研）・北脇裕太（新日本石油開発）・中尾節郎・西村和浩（京大防災研）・伊藤　潔（阪神コンサルタンツ）・大見士朗（京大防災研）・平原和朗（京大理）

12：15　B11-11　Over pressured fluids in subducting oceanic crust beneath Kii-peninsula inferred from anomalous interval vp/vs ratios
M. Ravi Kumar, °H. Kawakatsu, M.G. Bostock

12：30　B11-12　傾斜面におけるレシーバ関数振幅の評価と実データへの適用―フィリピン海スラブ内モホ面の変換効率分布―
°汐見勝彦（防災科学技術研究所）

10 月 21 日（水）　9：30～12：45　C 会場

掘削科学と地震学

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長　田中聡・小平秀一・小林励司・木下正高

9：30　C11-01*　マントル最下部・コアの地震学的研究を目指す海底孔内広帯域地震観測への期待
°田中　聡（海洋研究開発機構）

9：45　C11-02*　掘削科学と“グローバル地震学”
°川勝　均（東京大学地震研究所）

10：00　C11-03　海洋プレートモデルの再考
°藤本博己（東北大学　院理）

10：15　C11-04　21 世紀モホール計画：岩石研究レビュー，現状と今後の展望
°阿部なつ江（海洋研究開発機構 IFREE）・荒井章司（金沢大学）・宮下純夫（新潟大学）・海野　進（金沢大学）・森下知晃（金沢大学 FSO）

10：30　C11-05　Mohole 掘削に向けた地球物理学的研究　―戦略と計画―
°小平秀一（海洋研究開発機構）・島　伸和（神戸大学）
10：45　C11-06　地震探査から得られた伊豆小笠原前弧域の地殻構造とその進化過程
°山下幹也・小平秀一・高橋成実・巽　好幸・金田義行（海洋研究開発機構）
11：00　休憩
11：15　C11-07　伊豆小笠原島弧のもう一つの火山フロント
°高橋成実・小平秀一・山下幹也・巽　好幸・三浦誠一・佐藤　壮・高橋　努・野口直人・野　徹雄・海宝由佳・金田義行（海洋研究開発機構）
11：30　C11-08　関東アスペリティ・プロジェクトの背景，概要とこれまでの経緯
°小林励司（鹿児島大理）・山本由弦（JAMSTEC）・佐藤利典（千葉大理）・宍倉正展（産総研）
11：45　C11-09　関東アスペリティプロジェクト　―新コンセプト案―
°佐藤利典（千葉大理）・小林励司（鹿児島大理）・山本由弦（JAMSTEC）・伊藤久男（JAMSTEC）・川村喜一郎（深田研）・宍倉正展（産総研）・篠原雅尚（東大地震研）
12：00　C11-10　房総沖における地震発生過程解明をめざした MCS イメージング
°三浦誠一・山下幹也・高橋成実・野　徹雄・小平秀一（海洋研究開発機構）・野崎謙治（千葉大学）・小林励司（鹿児島大学）
12：15　C11-11　南海トラフ地震発生帯掘削の現状と今後の展開
°木下正高（海洋機構）・ハロルド・トビン（ウイスコンシン大），木村　学（東大理）・芦寿一郎（東大海洋研）・荒木英一郎（海洋機構）・斉藤実篤（海洋機構）・NanTroSEIZE 研究者一同
12：30　C11-12　南海トラフ震源域掘削プロジェクトへの期待と不安
°嶋本利彦（広島大・理）

10 月 21 日（水）　9：30～12：45　D 会場

地震先行過程

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）
座長　小泉尚嗣・山岡耕春

9：30　D11-01　地震予知研究と先行現象
°山岡耕春（名大環境）・小泉尚嗣（産総研）・中谷正生（東大地震研）・東田進也（東大学地震研）・長尾年恭（東海大海洋研）・西村卓也（地理院）・平松良浩（金沢大理工），堀　高峰（JAMSTEC）
9：45　D11-02*　気象庁における東海地震予知業務と平成 21 年 8 月 11 日に発生した駿河湾の地震（M6.5）の対応ついて
°舟崎　淳（気象庁地震火山部）
10：00　D11-03　せん断力下にあるガウジ層の内部構造解析とすべり予測の試み
°吉岡直人（深田地質研究所）・阪口　秀・堀　高峰（JAMSTEC）
10：15　D11-04　厚さが不均一な断層帯における断層面の拡大に関する考察
°山本清彦
10：30　D11-05　The fault width formation and stress state of impending large earthquakes : The observation and short-term forecasting
°Fumihide Takeda (TEC Inc)
10：45　D11-06*　南アフリカ金鉱山における地震活動の監視・予測・制御
°小笠原宏（立命館大）・南アフリカ金鉱山における半制御地震発生実験国際共同研究グループ

11：00　休憩

11：15　D11-07　地下水等総合観測による東南海．南海地震予測
◦小泉尚嗣．松本則夫．高橋　誠．佐藤　努．大谷　竜．北川有一．板場智史．梅田康弘．武田直人（産総研）

11：30　D11-08　1946 年南海地震前の四国太平洋沿岸の上下変動
◦梅田康弘．板場智史（産総研）

11：45　D11-09　沈み込みプレート境界型巨大地震に先行する深部での微動活動変化の特徴
◦有吉慶介．堀　高峰．中田令子．金田義行（海洋研究開発機構）・Jean-Paul Ampuero（Caltech）・松澤　暢．日野亮太．長谷川　昭（東北大学予知セ）

12：00　D11-10　相似地震から推定される 2000 年房総スロースリップイベント
◦木村尚紀．武田哲也．小原一成（防災科研）．笠原敬司（東大地震研）

12：15　D11-11　雑微動の自己相関関数に地震前後の変化は見えるか？～2007 年能登半島地震を例に～
◦大見士朗（京大防災研）．平原和朗（京大理）

12：30　D11-12　常時微動を用いた地震予知手法の検証
◦勝俣　啓（北大理）

10 月 21 日（水）　13：45～14：40　A 会場

若手学術奨励賞記念講演

（講演時間 20 分・質疑応答 5 分）

13：45　会長挨拶
平原和朗（日本地震学会会長）

13：50　A12-01*　震源過程と非地震性すべり　–相補的関係の解明・不完全なモデルを前提とした震源過程解析–
°八木勇治（筑波大学）

14：15　A12-02*　微小地震の震源パラメターと地震のスケーリング則：震源近傍観測の意義
°山田卓司（米国内務省地質調査所）

10 月 21 日（水）　15：00～17：45　A 会場

強震動・地震災害

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長　室谷智子・増田　徹・久田嘉章・青井　真

15：00　A12-03　強震動予測のためのスラブ内地震の不均質震源モデルの特性化（3）
°岩田知孝・浅野公之（京都大学防災研究所）

15：15　A12-04　Effective earthquake source characterization and modeling with Geostatistics for strong motion simulation
°Seok Goo SONG, Paul Somerville (URS Corporation)

15：30　A12-05　長大断層に関するスケーリング則　―海外で発生した長大断層での地震の解析事例―
°室谷智子（文部科学省）・松島信一（京大防災研）・吾妻　崇（産総研）・入倉孝次郎（愛知工大）

15：45　A12-06　長大断層地震のための強震動予測レシピ―四川大地震の強震動記録による検証―
°入倉孝次郎・倉橋　奨（愛知工大）

16：00　A12-07　断層すべりのライズタイムと強震動予測
°増田　徹（東京大学地震研究所）
16：15　休憩
16：30　A12-08　強震動予測手法に関するベンチマークテスト（その 1）
°久田嘉章（工学院大学）・青井　真（防災科学技術研究所）・加藤研一（鹿島建設）・川辺秀憲・釜江克宏・上林広敏（京都大学）・境　有紀（筑波大学）・早川　崇（清水建設）・永野正行（東京理科大学）・吉村智昭（大成建設）
16：45　A12-09　GPGPU を用いた三次元波動伝播シミュレーション
°青井　真（防災科研）・西沢直樹（日本 SGI）・青木尊之（東工大）
17：00　A12-10　地震波形インバージョンによる大阪堆積盆地の 3 次元基盤面形状の推定の試み（2）
°岩城麻子・岩田知孝（京大防災研）
17：15　A12-11　姉川地震（1909）の発生機構に関する考察
°中村正夫・松波孝治（京大防災研）
17：30　A12-12　1909 年姉川地震による滋賀湖北地域の木造住家倒壊率の空間的変化の考察
°山元周吾・中村喜裕（滋賀県立大環境）・齊藤隆志・松波孝治（京大防災研）

10 月 21 日（水）　15：00〜17：45　B 会場

地殻構造

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）
座長　藤江　剛・前田拓人・中島淳一・蔵下英司

15：00　B12-01　北海道・東北日本弧下における太平洋スラブ内の応力の中立面の位置と大地震の震源域
°北　佐枝子・岡田知己・中島淳一・松澤　暢・長谷川　昭
（東北大学理学研究科付属　地震・噴火予知研究観測センター）
15：15　B12-02　北西太平洋における構造探査観測
°藤江　剛・山下幹也・佐藤　壮・高橋　努・高橋成実・小平秀一（海洋研究開発機構）
15：30　B12-03　日本列島における Lg 波伝播の地域性
°小林雅裕（東大地震研）・古村孝志（東大地震研）・武村俊介（東大地震研）
15：45　B12-04　3 次元不均質地下構造モデルを用いた広帯域地震波伝播シミュレーション
°武村俊介（東大地震研）・古村孝志（東大地震研/東大情報学環）・小林雅裕（東大地震研）
16：00　B12-05　遠地 P 波入射に伴う長周期散乱波：波群の特徴とその起源の検討
°前田拓人（東大情報学環）・古村孝志（東大情報学環）・小原一成（防災科研）
16：15　休憩
16：30　B12-06　関東下におけるフィリピン海スラブの断裂―スラブ内地震（M〜7）との関連―
°中島淳一（東北大）・長谷川　昭（東北大）
16：45　B12-07　関東地方のリソスフェアにおける S 波の散乱減衰と内部減衰
°岡田摩利子・吉本和生（横浜市立大学）
17：00　B12-08　反射法データによる伊豆衝突帯北縁部・曽根丘陵断層帯の浅部 P 波速度構造
°加藤直子・佐藤比呂志・蔵下英司（東大地震研）
17：15　B12-09　伊豆衝突帯丹沢・御坂地域の地震波速度構造
°新井隆太（東大地震研）・岩崎貴哉（東大地震研）・佐藤比呂志（東大地震研）・阿部　進（地科研）・平田直（東大地震研）

17：30　B12-10　稠密地震観測による伊豆衝突帯の地殻構造
°蔵下英司・佐藤比呂志（東大地震研）・阿部　進（地科研）・加藤直子（東大地震研）・
石川正弘（横浜国立大）・小原一成（防災科研）

10 月 21 日（水）　15：00～17：45　C 会場

掘削科学と地震学

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）
座長　伊藤久男・荒木英一郎・西上欽也・廣野哲朗

15：00　C12-01　NanTroSEIZE 第 319 次航海におけるライザー掘削孔での MDT 水理試験
°加納靖之（京大防災研）・David Boutt（マサチューセッツ大）・Mai-Linh Doan（ジョセフ・フリエ大）・
Peter B. Flemings（テキサス大オースティン校）・伊藤高敏（東北大）・林為人（JAMSTEC）・
Demian. Saffer（ペンシルベニア州立大）・荒木英一郎（JAMSTEC）・
Tim Byrne（コネチカット大）・Lisa McNeill（サウザンプトン大）・
高橋共馬・江口暢久・Sean Toczko・Kyaw Thu Moe・
伊藤久男（JAMSTEC）・第 319 次航海乗船研究者

15：15　C12-02　NanTroSEIZE 第 319 次航海におけるライザー掘削孔での MDT 応力試験
伊藤高敏（東北大）・加納靖之（京大防災研）・林　為人（JAMSTEC）・
M.L. Doan（ジョセフ・フリエ大）・D. Boutt（マサチューセッツ大）・
P.B. Flemings（テキサス大オースティン校）・°伊藤久男（JAMSTEC）・
第 319 次航海乗船研究者

15：30　C12-03　南海トラフ地震発生帯掘削（NantroSEIZE）における長期孔内観測の計画と進捗
°荒木英一郎（JAMSTEC）・木下正高（JAMSTEC）・金田義行（JAMSTEC）・許　正憲（JAMSTEC）・
浜野洋三（JAMSTEC）・北田数也（JAMSTEC）・田村　肇（JAMSTEC）・
木村俊則（JAMSTEC）・Damian Saffer（Penn. State U.）・
Achim Kopf（U. Bremen）・Exp319 Shipboard science party

15：45　C12-04　ちきゅう Exp. 319 航海での実海域試験による長期孔内観測所設置手法の検討
°北田数也（JAMSTEC）・荒木英一郎（JAMSTEC）・木村俊則（JAMSTEC）・
Demian Saffer（ペンシルバ州大）・IODP Exp. 319 乗船研究者

16：00　C12-05　東南海地震震源域の深海掘削孔を用いた鉛直地震探査（VSP）
NanTroSEIZE VSP チーム・IODP Exp. 319 乗船研究者　発表者：°日野亮太（東北大・理）

16：15　休憩

16：30　C12-06*　野島断層におけるボアホール連続観測と繰り返し注水実験
°西上欽也（京大防災研）・野島断層解剖計画グループ

16：45　C12-07　防災科学技術研究所による陸上科学掘削―地震発生機構メカニズムに関連して―
°松田達生・小村健太朗（防災科研）

17：00　C12-08*　産業技術総合研究所による紀伊半島における深部掘削とその初期成果
°小泉尚嗣・下司信夫・中島　隆・大坪　誠・佐藤隆司・木口　努・重松紀生（産総研）

17：15　C12-09　東濃地震科学研究所で開発した深部ボアホール総合観測装置とボアホール観測により明らかになってきたこと
°石井　紘・浅井康広・大久保慎人・青木治三（東濃地震科学研究所）

17：30　C12-10　台湾チェルンプ断層における地震時の化学反応について：TCDP Hole-B Project の総括
°廣野哲朗・濱田洋平（大阪大）・谷川　亘（JAMSTEC）・TCDP Hole-B 研究グループ

10 月 21 日（水） 15：00～16：30 D 会場

地震先行過程

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長 中谷正生

15：00 D12-01 VHF 電波伝播異常から示唆される地震発生直前過程

°森谷武男・茂木 透（北大理地震火山）

15：15 D12-02 神津島西部の地下比抵抗構造探査および地電位差異常変化と地震活動との関連

°織原義明（東海大予知セ）・鴨川 仁（東学大物理）・長尾年恭（東海大予知セ）・上田誠也（日本学士院）

15：30 D12-03 地震活動から地殻変動を推論する

°尾形良彦（統計数理研究所・総合研究大学院大学）

15：45 D12-04 ナチュラルタイムの概念による地震活動解析

°上田誠也（日本学士院）・鴨川仁（東学大物理）

16：00 D12-05 ナチュラルタイム解析からみた地震活動の統計的性質

°鴨川 仁（東学大物理）・冨澤祐樹（東学大物理）・上田誠也（日本学士院）・長尾年恭（東海大予知セ）

16：15 D12-06 Natural Time の概念を用いた地震活動時系列の解析～1995 年 M 7.3 兵庫県南部および近年日本で発生した M7 クラスの地震のケース

°冨澤祐樹（東学大物理）・鴨川 仁（東学大物理）・上田誠也（日本学士院）・長尾年恭（東海大予知セ）

10 月 21 日（水） 16：45～17：45 D 会場

岩石実験・地殻応力

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長 久保篤規・桑野修

16：45 D12-07 四国下の 3 つの地震発生層におけるメカニズム解と応力逆解析

°久保篤規（高知大学理学部地震観測所）・知念和幸（高知大学理学部）・池田直将（高知大学理学部）

17：00 D12-08 石英ガウジの高速摩擦実験から決まった摩擦仕事量の破砕物粉砕へのエネルギー分配

°東郷徹宏・嶋本利彦（広島大学大学院理学研究科）

17：15 D12-09 三軸圧縮試験時の岩石の破壊成長にともなう Q 値の時間変化

°吉光奈奈・川方裕則（立命館大）・高橋直樹（三井住友建設）・高橋 学（産総研）

17：30 D12-10 粉体層の高速摩擦実験

°桑野 修（東大地震研）・安藤亮輔（産総研活断層セ）・波多野恭弘（東大地震研）

10 月 22 日（木） 9：30～12：45 A 会場

強震動・地震災害

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長 大井昌弘・赤澤隆士・鷹野 澄・倉橋 奨

9：30 A21-01 地震に起因する人間被害の学際的研究（5）―救急活動でみる短・中期発症―

°太田 裕（東濃地震科研）・志垣智子・宮野道雄（大阪市大）

9：45　A21-02　震後孤立集落の QOL 劣化と回復に関する研究（1）―食料確保の問題―
°中嶋唯貴・太田　裕（東濃地震科研）
10：00　A21-03　K-NET と震度観測網による震度情報の利活用
°大井昌弘・藤原広行（防災科研）・浅尾一已・岩崎　斉（千葉県消防地震防災課）
10：15　A21-04　緊急地震速報とリアルタイム地震観測システムを活用した超高層ビルの地震防災対策（超高層ビルの防災訓練での検証）
°久保智弘（ABSC）・久田嘉章・村上正浩・濱野航平（工学院大学）
10：30　A21-05　巨大地震発生をリアルタイムで検出する地震センサーの開発―S 波到来のリアルタイム推定―
°堀内茂木・堀内優子（(株)ホームサイスモメータ）・中村洋光・呉　長江（防災科研）・加地正明（(株)エイツー）・平山義治（(株)白山工業）
10：45　A21-06　関西地震観測研究協議会の強震観測システムのリアルタイム化に関する検討
°赤澤隆士（地盤研究財団）・荒木正之・坂本和佐（セントラル）・伊藤貴盛・鷹野　澄（東京大学）・堀家正則（大阪工業大学）・澤田純男（京都大学）
11：00　休憩
11：15　A21-07　新型 IT 強震計のセンサー性能と応用可能性
°鷹野　澄・伊藤貴盛（東大）
11：30　A21-08　IT 強震計を利用した地震情報ネットワーク
°伊藤貴盛・鷹野　澄（東大）
11：45　A21-09　最大振幅推定の区間長が P 波マグニチュードに及ぼす影響
°干場充之・岩切一宏・大竹和生（気象研究所）
12：00　A21-10　巨大地震に対応した緊急地震速報の高度化に向けて
°倉橋　奨・入倉孝次郎・正木和明（愛知工大）
12：15　A21-11　震源域即時推定システムの構築に向けて
°山本俊六・佐藤新二・是永将宏・野田俊太・木谷日出男（鉄道総研）・中村洋光（防災科研）
12：30　A21-12　強震ネットワーク（K-NET）データから推定した水平・上下動の応答スペクトル距離減衰式
°西村利光（地盤研究財団）・堀家正則（大阪工業大学）

10 月 22 日（木）　9：15～12：45　B 会場

地殻構造，地殻変動・GPS・重力

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）
座長　吉田康宏・雑賀敦・橋本学・村瀬雅之

9：15　B21-01　東海スローイベント発生域における人工地震探査
°上野友岳・武田哲也・小原一成・浅野陽一（防災科研）
9：30　B21-02　東海臨時観測で見た森町アクロスの信号の解析
°吉田康宏・勝間田明男（気象研）・國友孝洋（静大理）・岩切一宏（気象研）・加藤愛太郎・飯高　隆（地震研）・生田領野（静大理）・勝俣　啓（北大理）・岩崎貴哉・酒井慎一（地震研）・山岡耕春・渡辺俊樹・山崎文人（名大理）・津村紀子・野崎謙治・高橋福助（千葉大）・大久保慎人・鈴木貞臣（東濃地震科研）・平田　直（地震研）・熊澤峰夫（名大理）
9：45　B21-03　日向灘―南海トラフ超巨大地震の西縁？―の地殻・上部マントル構造
°仲西理子・小平秀一・藤江　剛・尾鼻浩一郎・瀧澤　薫・柏瀬憲彦・金田義行（JAMSTEC）
10：00　B21-04　中部九州における S 波振幅減衰域の検出
°松本　聡・清水　洋・松島　健・植平賢司（九大地震火山セ）

10：15　B21-05　九州地域の地殻の地震波速度構造
°雑賀　敦（東大地震研）・松本　聡・植平賢司・松島　健・清水　洋（九大地震火山セ）
10：30　B21-06　沖縄トラフのトラフ軸に沿う地殻構造探査
°及川光弘・西澤あずさ・金田謙太郎・堀内大嗣（海上保安庁）
10：45　B21-07　奄美海台の地震波速度構造
°西澤あずさ・金田謙太郎・及川光弘（海上保安庁）
11：00　休憩
11：15　B21-08　ALOS/PALSAR によるフィリピン海プレート沈み込みに伴う地殻変動検出の試み
°橋本　学・福島　洋（京大防災研）
11：30　B21-09　ALOS/PALSAR データを用いた 2008 年 10 月 6 日のラサ地震による地殻変動の解析
°松尾功二（北海道大学）・古屋正人（北海道大学）
11：45　B21-10　Distribution of surface strain and inter-plate creep inferred from GPS observation around the Himalaya
°M. Ponraj (IIG), S. Miura (Tohoku Univ.), C.D. Reddy (IIG), S.H. Mahajan (IIG) and S. Amirtharaj (IIG)
12：00　B21-11　Geodetic GPS observation in the West of Java Island : Plate coupling and active fault strain accumulation
°Meilano Irwan, Hasanuddin Z. Abidin, Heri Andreas, Irwan Gumilar, Dina Anggreni (Institut Teknologi Bandung, Indonesia),
Cecep Subarya (National Coordinating Agency for Surveys and Mapping, Indonesia),
Fumiaki Kimata , N.R Hanifa (Nagoya University)
12：15　B21-12　台湾東部の玉里（Yuli）において 2008-2009 年の水準測量で検出された台東縦谷断層のクリープによる地表変形―速報―その 1
°松多信尚（国立台湾大）・村瀬雅之（日大文理）・林　瑞仁（台湾中央研）・MD ABDUL MATIN（台湾中央研）・Hsin-Chieh Pu（台湾国立中央大）・陳　文山（国立台湾大）・林正洪（台湾中央研）
12：30　B21-13　台湾東部の玉里（Yuli）において 2008-2009 年の水準測量で検出された台東縦谷断層のクリープ―速報―その 2
°村瀬雅之（日大・文理）・松多信尚（国立台湾大・地質）・林　瑞仁（台湾中央研究院）・Hsin-Chieh Pu（台湾国立中央大）・MD ABDUL MATIN（台湾中央研究院）・陳　文山（国立台湾大・地質）・林　正洪（台湾中央研究院）

10 月 22 日（木）　8：55～12：45　C 会場

地殻ダイナミクスの謎：私にはここが分からない

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）
座長　芝崎文一郎・松原　誠・高田陽一郎・橋間昭徳

8：55　趣旨説明
高田陽一郎（JAMSTEC）
9：00　C21-01　地殻ダイナミクスの謎の解明に向けた問題設定の枠組み
°深畑幸俊（京大防災研）
9：15　C21-02　脆性塑性遷移領域の流体
°藤本光一郎（東京学芸大学）
9：30　C21-03　トモグラフィーから推定される水の存在形態
°松原　誠・小原一成（防災科研）

9：45　C21-04　2008 年 M8 四川省大地震について
°趙　大鵬（東北大・理）・雷　建設（中国地震局）

10：00　C21-05　断層帯の不均質変形と内陸大地震の発生に関する疑問　―削剥断層の地質構造から―
°重松紀生（産総研活断層・地震研究センター）

10：15　C21-06*　地殻ダイナミクスの未解決問題：応力レベルと変形のアコモデーション
°竹下　徹（北海道大学・理）

10：30　C21-07　地殻のレオロジー構造と内陸大地震の発生過程―モデル化における問題点―
°芝崎文一郎（建築研）・重松紀生（産総研）

10：45　休憩

11：00　C21-08　On the enigma of structure and tectonics of the Izu collision zone
°Masahiro Ishikawa (Yokohama National Univ.)

11：15　C21-09　ひずみ集中帯の謎―なぜ大地震が起きるのか？―
°鷺谷　威・小澤和浩・朝日友香（名大・環境）

11：30　C21-10　水平短縮している堆積盆地がなぜ沈降するのか？
°飯尾能久（京大・防災研）

11：45　C21-11　逆断層フロントの浸蝕とナッペの形成
°池田安隆（東大理）

12：00　C21-12　東北日本弧における地殻厚化およびアイソスタティック隆起
°岡田真介（産業技術総合研究所）・田力正好（地震予知総合研究振興会）・池田安隆（東京大学大学院理学系研究科）

12：15　C21-13　地殻ダイナミクス理解のための課題―付加体形成を例として―
°堀　高峰・阪口　秀（JAMSTEC）

12：30　C21-14　地殻構造探査から見た日本列島のクラスタルダイナミクスの諸問題
°佐藤比呂志（東京大学地震研究所）

10 月 22 日（木）　9：30～10：45　D 会場

学校教育と知識普及

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）
座長　大塚成昭・根本泰雄

9：30　D21-01　東京大学における大学院生出張授業支援プロジェクトの活動報告
°渡邉俊一（東大地震研）・音野瑛俊（東大物理）・安藤康伸（東大物理）・石川遼子（東大天文）・岩崎　渉（東大新領域）・榎戸輝揚（東大物理）・生出秀行（東大物理）・大録誠広（東大物理）・河原弘樹（東大物理）・喜多村茜（東大工）・貴舩永津子（東大生物科学）・小寺千絵（東大生物科学）・近藤菜穂（東大農学生命）・猿谷友孝（東大地震研）・砂田麻里子（東大生物科学）・手塚真樹（東大物理）・豊田丈典（東大地震研）・中島迪子（東大農学生命）・中村史一（東大物理）・永村直佳（東大物理）・葉山達也（東大医）・平沢達矢（東大地惑）・南崎梓（お茶大理）・宮武広直（東大物理）・横山広美（東大理広報）

9：45　D21-02　京都大学付近の花折断層周辺の地殻上下変動　―京都大学における一般教育科目としての地球科学実験―
°大塚成昭（神戸学院大・人文）・加藤　護・金子克哉・石川尚人・酒井　敏（京大大学院　人間・環境学）

10：00　D21-03　2009 年教員サマースクール「根尾谷断層を探る！」の実施と免許状更新講習の開設
°伊東明彦（宇都宮大教育）・数越達也（神戸高）・中島　健（守山中高）・根本泰雄（桜美林大自然）・荒井賢一（栄東高）・南島正重（小石川高）

10：15　D21-04　(社)日本地震学会が行う教員免許更新講習の進むべき道
°根本泰雄（桜美林大学自然）・廣内大助（信州大教育）・伊東明彦（宇都宮大教育）・宮嶋　敏（深谷第一高）・中島　健（守山中・高）・数越達也（神戸高）

10：30　D21-05　平成 21 年度教員免許状更新講習および教員サマースクール『地震と活断層』の実施について
°中島　健（滋賀県守山中高）・廣内大助（信州大教育）・伊東明彦（宇都宮大教育）・根本泰雄（桜美林大自然系）・数越達也（兵庫県神戸高）・宮嶋　敏（埼玉深谷第一高）

10 月 22 日（木）　11：00～12：45　D 会場

次世代の理論地震学と地球内部構造研究

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）
座長　川崎一朗・中西一郎

11：00　D21-06　高精度な観測と斬新な解析と地球中心核の運動と
°大久保慎人（東濃地震科学研究所）

11：15　D21-07　速度構造パラメーターの初動走時への感度の高速計算アルゴリズム
°干野　真（応用地質）

11：30　D21-08　地球中心も含めた精度と効率のよい全地球地震波伝播モデリング
°豊国源知（極地研）・竹中博士（九大・理）

11：45　D21-09　3 次元不均質構造における平面波斜め入射問題を解く新しい方法：支配方程式と差分法による解法
°竹中博士（九州大・理）・岡元太郎（東工大）・中村武史（JAMSTEC）

12：00　D21-10　Generation of Intermediate-Depth Earthquakes and the Evolution of Subducting Plate
°Miaki Ishii, Eric Kiser, Charles H. Langmuir (Harvard University), Peter M. Shearer (Scripps Institution of Oceanography, UCSD), and Hitoshi Hirose (National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention)

12：15　D21-11　不均質媒質での地震波伝搬における因果律：速度異常の正負と時間の流れ方向との関係
°蓬田　清（北大・理）・河原　純（茨城大・理）

12：30　D21-12　方位異方的地球の弾性定数の一般化座標による展開
°川崎一朗（京都大学防災研究所）

10 月 22 日（木）　13：45～16：30　A 会場

強震動・地震災害，地盤構造・地盤震動

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）
座長　神田克久・池浦友則・野口科子・山田真澄

13：45　A22-01　弟子屈地震による強震動記録の解析（2）
°増田　翔・前田宜浩（北大理）・Yadab Dhakal・笹谷努（北大工）

14：00　A22-02　1963 年越前岬沖地震の震度インバージョン解析
°神田克久・武村雅之（鹿島小堀研）・岡崎　敦（関西電力）・羽田浩二（ニュージェック）

14：15　A22-03　マルコフ近似に基づくエンベロープをグリーン関数として用いた断層からの高周波エネルギー輻射量推定法
°澤崎　郁・佐藤春夫・西村太志（東北大理）

14：30　A22-04　コーダ規格化法による日本全国のサイト増幅特性の推定（2）―震度の距離減衰の補正と震度予測への適用
°竹本帝人（東大地震研）・古村孝志（地震研・CIDIR）・齊藤竜彦（防災科研）・前田拓人（地震研・CIDIR）

14：45　A22-05　隣接観測点間のスペクトル比を連結した K-NET・KiK-net サイトの相対地盤増幅率評価
°池浦友則（鹿島技術研究所）

15：00　休憩

15：15　A22-06　Source and Site Characteristics of Earthquakes that have Caused Exceptional Ground Accelerations and Velocities
°John Anderson (University of Nevada, Reno ; Visiting Earthquake Research Institute, The University of Tokyo)

15：30　A22-07　表層地盤の非線形応答度合いと地震動増幅率の定量的関係
°野口科子（東大・情報学環）・笹谷　努（北大・工）

15：45　A22-08　KiK-net ―関西観測点における強震時および弱震時の表層地盤の震動特性
°木村美帆・浅野公之・岩田知孝（京大防災研）

16：00　A22-09　岩手宮城内陸地震における AKTH04，IWTH25，及び，IWTH26 sites の表層地盤のグリーン関数
°田中友香里・木下繁夫（横浜市大）

16：15　A22-10　Subsurface Velocity Changes during Strong Shaking as Seen from Seismic Interferometry
°Masumi Yamada, Jim Mori, Shiro Ohmi (Kyoto University)

10 月 22 日（木）　13：45～16：30　B 会場

地殻変動・GPS・重力

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長　日置幸介・水藤　尚・宮武　隆・佐藤まりこ

13：45　B22-01　明治 24 年（1891 年）濃尾地震に伴う地殻変動と震源断層モデル
°高野和友（地理院測地）・木股文昭（名大環境）

14：00　B22-02　稠密 GPS 網による弾道ミサイルの軌道決定
°日置幸介・大関　優（北大院理）

14：15　B22-03　Movement of the forearc sliver along the southern Kuril arc estimated from a decade of GSI permanent GPS observations
°佐藤魂夫・小野文香・平塚晋也・小菅正裕（弘前大）

14：30　B22-04　GEONET に基づく日本列島周辺のすべり欠損分布の推定
°水藤　尚（国土地理院）

14：45　B22-05　稠密 GPS 観測による四国西部の地殻変動場と中央構造線の運動様式
°島本麻美・田部井隆雄（高知大理）・一谷祥瑞（高知工業高校）・松島健　（九大院理）・宮崎真一（京大院理）・加藤照之（東大震研）・河野裕希（北大院理）・加藤佐代正（四国総研）

15：00　休憩

15：15　B22-06　不均質構造で発生する地震による地殻変動（その 2）
°宮武　隆（東大地震研）・刀禰茂康（かんぽ生命保険(株)）

15：30　B22-07　京都・上賀茂観測所で使用された Rebeur-Paschwitz 型傾斜計の変遷
°竹本修三（国際高等研）・James Mori（京大防災研）・Luis Rivera（ストラスブール大）・Julien Frechet（ストラスブール大）

15：45　B22-08　2005年宮城県沖の地震（M 7.2）後の海底の動き
°佐藤まりこ・齋藤宏彰・浅倉宜矢・牛島　学・藤田雅之・矢吹哲一朗（海洋情報部）・望月将志・浅田　昭（東大生研）

16：00　B22-09　南海トラフにおける海底地殻変動観測結果
°齋藤宏彰・佐藤まりこ・浅倉宜矢・牛島　学・藤田雅之・矢吹哲一朗（海洋情報部）・望月将志・浅田　昭（東大生研）

16：15　B22-10　海底地殻変動観測で明らかになった中部琉球海溝軸付近での地殻変動
°中村　衛（琉球大）・田所敬一（名古屋大）・奥田　隆（名古屋大）・安藤雅孝（台湾中央研究院）・渡部　豪（名古屋大）・杉本慎吾（名古屋大）・宮田皓司（名古屋大）・松本　剛（琉球大）・古川雅英（琉球大）・尾藤原野（琉球大）

10月22日（木）　13：45〜15：15　C会場

地殻ダイナミクスの謎：私にはここが分からない

（講演時間12分・質疑応答3分）
座長　重松紀生・岡田真介

13：45　C22-01　なぜ，どのように下盤側が剥離するのか？：プレート境界面の時間発展の謎
°高田陽一郎（JAMSTEC）・堀　高峰（JAMSTEC）・阪口　秀（JAMSTEC）

14：00　C22-02*　台湾の地殻形成
°平田　直（東大地震研），永井悟（台湾大），佐藤比呂志（東大地震研）

14：15　C22-03　背弧海盆形成の力学的要因について
°橋間昭徳（千葉大学・地球生命圏科学専攻）

14：30　C22-04　3—D Tectonic Stress Fields in and around Japan Inverted from CMT Data of Seismic Events
寺川寿子（ボン大学）・°松浦充宏（統計数理研）

14：45　C22-05*　四国海盆の拡大停止に関する思考実験
°高橋雅紀（産総研地質情報）

15：00　総合討論

10月22日（木）　15：30〜16：30　C会場

テクトニクス

（講演時間12分・質疑応答3分）
座長　江口孝雄・石川有三

15：30　C22-06　沈み込むスラブの伴流と背弧側プレートの応力場
°中久喜伴益（広島大・院理）

15：45　C22-07　アウターライズ付近にて折れ曲がる海洋リソスフェア内の地震活動に関する力学的過程
°江口孝雄（防衛大）

16：00　C22-08　地磁気から見えるプレート運動速度の変化
°石川有三（気象庁地磁気観測所）

16：15　C22-09　四国海盆の拡大に伴う西南日本外帯の成立
°高橋雅紀（産総研地質情報）

10 月 22 日（木）13：45～16：30　D 会場

地震予知

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）
座長　楠城一嘉・筒井　稔

13：45　D22-01　日本地震発生予測検証実験：予察結果と本実験の開始について
°楠城一嘉・鶴岡　弘・平田　直（東大地震研）・地震活動評価に基づく地震発生予測研究グループ

14：00　D22-02　A new scoring method for earthquake predictions and forecasts
°庄　建倉（統計数理研究所）

14：15　D22-03　震源要素の誤差を考慮した地震発生確率モデルの検定について
°井元政二郎（防災科研）

14：30　D22-04　近畿地方の最近の地下水変化と地殻活動異常
°佃　為成（なし）

14：45　D22-05　地震直前に受信された電磁波の研究について
°國廣秀光（JYAN 研究会）

15：00　休憩

15：15　D22-06　地震関連の地中電磁波パルス検出のための条件と弁別方法
°筒井　稔・神谷宗利・中谷太環（京産大コンピュータ理工）・長尾年恭（東海大海洋研）

15：30　D22-07　地震前後における動物の異常行動
°山本勇人（神奈川工科大工）・大嶋宏誌（神奈川工科大院）・松下直樹（神奈川工科大工）・矢田直之（神奈川工科大工）

15：45　D22-08　大気イオン濃度変化および電磁波に見られる地震前兆現象
°大嶋宏誌（神奈川工科大院）・矢田直之（神奈川工科大工）

16：00　D22-09　大地震の前後に観測される異常電界
°高橋耕三（なし）・Matveev Igor（IPE RAS）・矢崎　忍（防災科研）・藤縄幸雄（REIC）

16：15　D22-10　最大瞬間風速からの地震予知（4）―強風のエネルギーと地震のエネルギー―
°猿渡隆夫（なし）

10 月 23 日（金）　9：30～12：45　A 会場

地震発生の物理

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）
座長　小笠原宏・久家慶子・福山英一・小原一成

9：30　A31-01　A Japanese - South African Collaboration for Observational Study to Mitigate Seismic Risks in Mines
°H Ogasawara (Rits. U.), R J Durrheim (CSIR/Wits U.), M Nakatani (U. Tokyo), Y Yabe (Tohoku U.), A Milev (CSIR), A Cichowicz (CGS), H Kawakakata (Rits. U.), H Moriya (Tohoku U.), T. Satoh (AIST), SATREPS

9：45　A31-02　Joint South African and Japanese studies of rock mass behavior around deep level mining in South Africa
°A Milev1,4, R Durrheim1,3,4, M Nakatani1,5,7, Y Yabe1,6,7, H Ogasawara1,2, JAGUARS7 Research Group and SATREPS1 SA Gold Mine Research Group 1JST-JICA, Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development (SATREPS) ; 2Ritsumeikan U. ; 3U. Witwatersrand (WITS), South Africa ; 4Council for Scientific and Industrial Research (CSIR), South Africa ; 5ERI, U. Tokyo ; 6Tohoku U ; 7JApanese-German Underground Acoustic emission Research in South Africa (JAGUARS)

10：00　A31-03　Aftershock activity of a M2 EQ in a deep South African gold mine —spatial distribution and magnitude-frequency relation—
°Makoto Naoi, Masao Nakatani (Tokyo Univ.), Grezegorz Kwiatek, Katrin Plenkers (GFZ potsdam), Yasuo Yabe (Tohoku Univ.) and JAGUARS group

10：15　A31-04　長野県西部地域における微小地震の静的応力降下量
°佐々木裕樹・飯尾能久（京大防災研）・堀内茂木（防災科研）・行竹洋平（神奈川温地研）・桑原保人・小村健太郎（産総研）

10：30　A31-05　2005 年宮城県沖の地震（M 7.2）による応力変化と宮城県沖の応力場の推定
°鈴木健介・日野亮太・伊藤喜宏（東北大・理）・金沢敏彦・山田知朗・篠原雅尚（東大・地震研）・植平賢司（九大・理）・山本揚二朗・金田義行（海洋研究開発機構）

10：45　A31-06　2007 年 8 月 8 日ジャワ島稍深発地震：先駆破壊をもつ大地震の震源過程
°久家慶子（京大理）

11：00　休憩

11：15　A31-07　2007 年新潟県中越沖地震の震源断層再考
°纐纈一起・引間和人・三宅弘恵（東大地震研）

11：30　A31-08　地震時の共役断層破壊
°福山英一（防災科研）

11：45　A31-09　東海地震震源域の深部遷移領域の包括的理解にむけて
°加藤愛太郎・飯高　隆（東大地震研）・生田領野（静大）・吉田康宏（気象研）・勝俣　啓（北大）・岩崎貴哉，・酒井慎一（東大地震研）・山岡耕春・渡辺俊樹（名大）・國友孝洋（静大）・山崎文人（名大）・津村紀子・野崎謙治・高橋福助（千葉大）・大久保慎人・鈴木貞臣（東濃地震科研）・平田　直（東大地震研）

12：00　A31-10　ハイブリッド法に基づく深部低周波微動活動の再評価と短期的 SSE すべり分布との関係
°小原一成・田中佐千子（防災科研）・前田拓人（東京大学）

12：15　A31-11　深部低周波微動から推定した短期的スロースリップの初期フェイズの特徴
°広瀬哲也（金沢大）・平松良浩（金沢大）・小原一成（防災科研）

12：30　A31-12　豊後水道地域における深部非火山性微動の振幅度数分布の時間変動
°花川元美・須田直樹（広島大学院理）

10 月 23 日（金）　9：00～12：45　B 会場

地盤構造・地盤震動，地震活動

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長　多田　卓・上林宏敏・篠原雅尚・三好崇之

9：00　B31-01　鉛直アレー観測記録による地盤減衰同定に関する予察的一考
°小林源裕・儘田　豊・堤　英明（原子力安全基盤機構）

9：15　B31-02　Ray に付随する波の瞬時 power に基づく速度不連続境界の推定
°高岸万紀子・木下繁夫（横浜市大）

9：30　B31-03　一般理論が切り開く微動アレイの可能性：レーリー波とラブ波のパワー比推定
°多田　卓・長　郁夫（産総研）・篠崎祐三（東京理科大・工）

9：45　B31-04　地震波干渉法による首都圏の地震基盤構造の推定
°吉本和生（横浜市大）・平田　直・笠原敬司・酒井慎一（東大地震研）・小原一成（防災科研）・棚田俊收（神奈川県温地研）・鶴岡　弘・中川茂樹（東大地震研）・中原　恒（東北大）・木下繁夫（横浜市大）・佐藤比呂志（東大地震研）

10：00　B31-05　南関東および相模湾地域の堆積層の S 波速度構造モデルの検証のための地震波干渉法による表面波群速度の推定
°山中浩明・地元孝輔（東工大）・諸井孝文・池浦友則（鹿島）・纐纈一起・坂上　実（東大地震研）・中井正一・関口　徹（千葉大）・小田義也（首都大学東京）

10：15　B31-06　大阪堆積盆地モデルを用いた長周期微動シミュレーションと H/V スペクトルの空間変動　その 2
°上林宏敏・川辺秀憲・釜江克宏（京大原子炉）

10：30　B31-07　入力波動場に基づく 3 次元非線形地盤応答解析法
°飯田昌弘（東大地震研）

10：45　休憩

11：00　B31-08　The Separation of intrinsic and scattering seismic attenuation in South Korea
°Tae Woong Chung (Sejong Univ., KOREA), Kazuo Yoshimoto (Yokohama-city Univ.), Sukyoung Yun (KOPRI)

11：15　B31-09　長期観測型海底地震計による千島海溝・日本海溝域の震源分布とプレート境界形状
°篠原雅尚・山田知朗・桑野亜佐子・中東和夫・町田祐弥・望月公広・金沢敏彦（東大地震研）・高波鐵夫（北大理：現カーネギー研）・日野亮太（東北大理）

11：30　B31-10　長期観測型海底地震計による千島海溝・日本海溝沿いのアスペリティ周辺の地震活動調査
°高波鐵夫 1)・村井芳夫・雨宮晋一郎 2)・町田祐弥 3)・三浦　亮 4)・一條和宏（北大理）・金沢敏彦・篠原雅尚・山田知朗・望月公博・酒井慎一・中東和夫・桑野亜佐子・八木健夫・橋本信一（東大地震研）・長谷川　昭・日野亮太・東　龍介（東北大理）
現住所：1）カーネギー研究所，2）自宅，3）東大地震研，4）日本海洋事業

11：45　B31-11　ひずみ集中帯における断層セグメント境界の検出の可能性
°武田哲也（防災科研）・佐藤比呂志（東大地震研）・小原一成（防災科研）・エネスクボグダン（防災科研）

12：00　B31-12　2007 年新潟県中越沖地震の北方域の地震テクトニクス：佐渡海盆東縁断層・長岡平野西縁断層帯と北方延長（予報）
°石橋克彦（なし）・原田智也（東大地震研）

12：15　B31-13　伊勢湾―湖北スラブの二重地震面
°三好崇之（防災科研）・小原一成（防災科研）

12：30　B31-14　1891 年濃尾地震の震源域周辺における近年の地震活動（2）　―発震機構解から推定される起震応力場―
°浅野陽一（防災科研）・行竹洋平（神奈川温地研）・小原一成（防災科研）

10 月 23 日（金） 9：00～12：45 C 会場

地殻変動・GPS・重力，津波，地震の理論・解析法

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長 木戸元之・行谷佑一・中原恒

9：00 C31-01 GPS/音響方式による海底地殻変動観測の精度改善への取り組み
°木戸元之・長田幸仁・藤本博己（東北大学・予知セ）

9：15 C31-02 海中音速の時空間変化を同時推定する海底測位手法の開発
°杉本慎吾・田所敬一（名古屋大学）・生田領野（静岡大学）・渡部 豪・奥田 隆・宮田皓司（名古屋大学）・佐柳敬造・長尾年恭（東海大学）

9：30 C31-03 海底間音響測距装置の開発
°長田幸仁・木戸元之・藤本博己（東北大理）・金田義行（海洋機構）

9：45 C31-04 高精度海洋モデルによる海底鉛直地殻変動の検出法の開発
°稲津大祐・日野亮太・藤本博巳（東北大・理・予知セ）

10：00 C31-05 沖合津波波形を用いた断層すべり分布の推定に基づく近地津波予測：概念設計
°対馬弘晃・日野亮太・藤本博己（東北大・理）・谷岡勇市郎（北大・理）・今村文彦（東北大・工）

10：15 C31-06 2005 年三陸沖，2008 年福島県沖地震津波 ―波源域と規模（1897-2008）
°羽鳥徳太郎

10：30 C31-07 地震動によって引き起こされた海底堆積メタン・ハイドレートのバーストによる津波の誘発事例
°都司嘉宣（地震研）

10：45 休憩

11：00 C31-08 静振卓越周期の振幅とその再現性
°阿部邦昭（日歯大新潟短大）

11：15 C31-09 津波被害記録を用いた被害関数の構築 ―1944 年東南海地震津波による尾鷲市内の被害を例に―
°行谷佑一（産総研活断層セ）・越村俊一（東北大工）

11：30 C31-10 地震による歪解放パターンの空間分布を把握するための triple stress tensor mapping
°小菅正裕（弘前大・理工）

11：45 C31-11 地震発生サイクルシミュレーションコードの高速化：(1) 検討と高速多重極法の適用
°平原和朗（京大・理）・光井能麻（名大・環境）・堀 高峰（JAMSTEC）

12：00 C31-12 コーダ波干渉法による浅間山直下の地下構造時間変化の推定
°長岡 優・西田 究・武尾 実・青木陽介（東大地震研）

12：15 C31-13 Statistics of the fluctuations of the amplitude of coda waves of local earthquakes
°Eduard Carcole, Haruo Sato
(Dept. of Geophysics, Graduate School of Science Tohoku University)

12：30 C31-14 最尤法に基づくコーダ Q と仲上の m 値の推定法
°中原 恒・カルコーレ エドワルド（東北大学）

10 月 23 日（金） 9：30～12：45 D 会場

地震一般・その他，活断層と古地震

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長 武村雅之・岩瀬良一・渡辺満久・金 幸隆

9：30 D31-01 寺田寅彦と地震予知
°泊 次郎（東大地震研）

9：45　D31-02　震災予防協会と地震学会―組織の変遷を通して考える地震学と社会
°武村雅之（鹿島・小堀研）

10：00　D31-03　琉球海溝西部におけるプレート境界面上のカップリング状態
°安藤雅孝・Cheng-Horng Lin・Yoko Tu (IES, AS)

10：15　D31-04　W phase analysis of recent large Indonesian earthquakes and possible application for tsunami warning system
Tri Handayani (BMKG), °Kenji Satake (ERI, U. Tokyo), and Luis Rivera (U. Strasbourg)

10：30　D31-05　Historical Seismograms for Unraveling a Mysterious Earthquake (The 1907 Sumatra Earthquake)
°Hiroo Kanamori (California Inst. Tech. and Tohoku University),
Luis Rivera (Universite de Strasbourg),
William H. K. Lee (U.S. Geological Survey)

10：45　D31-06　満点計画におけるデータベースシステム
°澤田麻沙代・三浦　勉・米田　格・多田光弘・飯尾能久（京大防災研）

11：00　D31-07　高知県室戸岬沖「海底地震総合観測システム」における給電電圧変動
°岩瀬良一（JAMSTEC）

11：15　休憩

11：30　D31-08　コンピュータシミュレーションを用いた断層撓曲と断層パラメータの解明
°安藤広一（首都大学東京）・山崎晴雄（首都大学東京）

11：45　D31-09　積丹半島西岸の地殻変動と海底活断層
°渡辺満久（東洋大）・中田　高（広島工大）・鈴木康弘（名古屋大）

12：00　D31-10　六日町断層南部における過去 10.000 年間の水平歪み速度と縦ずれ変位量　―撓曲，断層，破断のずれを考慮して―
°金　幸隆（東大地震研）

12：15　D31-11　遠州灘・熊野灘の活断層
°中田　高（広島工学）・渡辺満久（東洋大）・鈴木康弘（名古屋大）・後藤秀昭（広島大）・徳山英一（東大海洋研）・隈元　崇（岡山大）加藤幸弘・西澤あずさ・泉　紀明・伊藤弘志・渡邊奈保子（海上保安庁）・植木俊明（海洋先端研）

12：30　D31-12　微動 H/V スペクトル比を用いた警固断層位置の推定
°川瀬　博（京大防災研）・渋谷龍典（大成建設）

10 月 23 日（金）　15：00～17：45　A 会場

地震発生の物理

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）
座長　安藤亮輔・波多野恭弘・中野優・橋本千尋

15：00　A32-01　深部低周波微動の特徴的時定数の推定
°井出　哲（東大・理）

15：15　A32-02　深部低周波地震の発生過程に関する理論的考察
°安藤亮輔（産総研活断層セ）・中田令子（JAMSTEC）・堀　高峰（JAMSTEC）

15：30　A32-03　地震のモーメントと滑り時間の関係―熱・流体・非弾性な空隙生成の相互作用の効果―
°鈴木岳人（東大地震研）

15：45　A32-04　粉体層における臨界すべり長のスケーリング
°波多野恭弘（東大地震研）

16：00　A32-05　媒質境界面上の準静的 mode-Ⅱ亀裂に関する数理的考察
°平野史朗・山下輝夫（東大地震研）
16：15　休憩
16：30　A32-06　連動地震における遅れ破壊のメカニズム―断層面上のレオロジー的効果の影響―
°中野　優（防災科研）・安藤亮輔（産総研活断層セ）・熊谷博之（防災科研）
16：45　A32-07　Dynamic Rupture Modeling of Anticipated Nankai Earthquake
°Sebastien Hok (NIED, Japan), Eiichi Fukuyama (NIED, Japan), Chihiro Hashimoto (Nagoya U)
17：00　A32-08　GPS データインバージョンによる西南日本のプレート間カップリングの推定
°橋本千尋・鷺谷　威（名大環境）・松浦充宏（統数研）
17：15　A32-09　東海地域の割れ残りとスロースリップイベントの再現
°弘瀬冬樹・前田憲二（気象研）
17：30　A32-10　速度・状態依存摩擦構成則を用いたバネ―ブロックモデルの数値シミュレーションと破壊核形成過程
森本祥司・山本　匠・°川村　光（阪大理）

10 月 23 日（金）　15：00～17：45　B 会場

地震活動

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）
座長　望月公廣・石原　靖・青木重樹・岩田貴樹

15：00　B32-01　繰り返し長期海底地震観測による東南海・南海地震震源域における地震活動と地震波速度構造
°望月公廣・中東和夫・桑野亜佐子・山田知朗・篠原雅尚・酒井慎一・金沢敏彦（東大地震研）・
植平賢司・清水　洋・田原道崇（現：応用地質）（九大理）
15：15　B32-02　日向灘の相似地震活動と推定された準静的すべり
°山下裕亮・清水　洋（九大地震火山セ）・後藤和彦（鹿大南西島弧）
15：30　B32-03　プレート境界付近（日向灘～奄美大島）で発生する相似地震の特徴
°吉田沙由美（名大・環境）・後藤和彦（鹿大・理工）
15：45　B32-04　深部低周波微動発生域での広帯域アレー地震観測：低周波微動に伴う VLF イベントの活動度
°石原　靖（JAMSTEC）・須田直樹（広島大）・中田令子（JAMSTEC）・
久保篤規・川谷和夫（高知大）・川勝　均（東大地震研）
16：00　B32-05　ブルマ・プレートの下に沈み込むインド・プレートの詳細形状
°古川信雄（建築研）・パパツゥン（ミャンマー気象）・芝崎文一郎（建築研）
16：15　休憩
16：30　B32-06　客観的な小三角分割手法による三角ダイヤグラムを用いたメカニズム解分布の変化の統計的検出
°青木重樹・岡田正実（気象研）
16：45　B32-07　「早期の余震はすべて動的トリガリング作用による」仮説への反証
キース　リチャードディンジャー（UC リバーサイド）・ロス　スタイン（米地質調査所）・
°遠田晋次（京大防災研）
17：00　B32-08　大地震に誘発された地震活動から推定した応力蓄積速度と Aσ
°菅谷勝則・平松良浩（金沢大）・古本宗充（名古屋大）・片尾　浩（京大防災研）
17：15　B32-09　地震検知率の日変化に関する定量的解析　―曜日ごとの違い―
°岩田貴樹（早稲田大学）
17：30　B32-10　内陸地震の活発化と海陸プレートの相互作用
°野口伸一（防災科研）

10 月 23 日（金） 15：00～17：45 C 会場

地震の理論・解析法，地球及び惑星の深部構造と物性

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長 河原 純・綿田辰吾・米田 明・竹内 希

15：00 C32-01 2 次元フォン・カルマン型ランダム媒質の自由表面におけるベクトル波エンベロープの導出
°江本賢太郎（東北大・理）・佐藤春夫（東北大・理）・西村太志（東北大・理）

15：15 C32-02 介在物分布を含む 2 次元媒質中の SH 波エンベロープ：マルコフ近似理論と数値実験の比較
°河原 純（茨城大理）・齊藤竜彦（防災科研）・蓬田 清（北大理）

15：30 C32-03 密度成層する流体波動の放射境界条件
°綿田辰吾（東大地震研）

15：45 C32-04 Inclusion effect on macroscopic composite elasticity : A systematic simulation by changing elastic properties of matrix and inclusion phases
°Akira Yoneda, Ferdous Hasan Sohag (Okayama Univ.)

16：00 C32-05 月周回探査機「かぐや」の測月観測結果に基づく月地殻厚推定と月震観測データの再解析による月地殻厚推定結果との比較
°石原吉明（国立天文台）・ホーセンス サンダー（国立天文台）・松本晃治（国立天文台）・野田寛大（国立天文台）・荒木博志（国立天文台）・並木則行（千葉工大）・花田英夫（国立天文台）・岩田隆浩（ISAS/JAXA）・田澤誠一（国立天文台）・佐々木晶（国立天文台）

16：15 休憩

16：30 C32-06 表面波を用いたフィリピン海北部の S 波速度異方性構造
°一瀬建日・塩原 肇 （ERI）・Montagner, J.-P. （IPGP）・杉岡裕子・伊藤亜妃・志藤あずさ（IFREE）・金沢敏彦（ERI）・吉澤和範（北大理）

16：45 C32-07 全マントル速度構造と方位異方性
°山本芳裕・趙大鵬（東北大理予知セ）

17：00 C32-08 短周期核反射波から得られた西太平洋最下部マントルにおける部分溶融の証拠
°出原光暉（東大地震研）

17：15 C32-09 migration による南西太平洋地域の D″不連続面 topography の検出
°竹内 希（東大地震研）・小原一成（防災科学研究所）

17：30 C32-10 Simulated annealing を用いた core phase の走持及び減衰パラメータ解析
°入谷良平・竹内 希・川勝 均（東大地震研）

10 月 23 日（金） 15：00～17：45 D 会場

活断層と古地震，地震計測・処理システム

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長 西山昭仁・松浦律子・小林直樹・東田進也

15：00 D32-01 活断層のずれ速度を利用した BPT 分布更新過程の事前分布とその予測精度比較
°野村俊一（総研大）・尾形良彦（統数研）・遠田晋次（京大防災研）・駒木文保（東大情報理工）

15：15 D32-02 天延四年（976）京都・近江の地震における被害状況
°西山昭仁（東大地震研）

15：30 D32-03 歴史地震の震源域位置および規模の系統的再検討―第 10 報―（南海トラフ関連の中小 5 地震など）
°松浦律子（地震予知振興会）・中村 操・唐鎌郁夫（防災情報サ）

15：45　D32-04　安政東海地震（1854）による，江戸市中，および，関東地方の詳細震度分布
°松岡祐也（東北大）・都司嘉宣（東大地震研）

16：00　休憩

16：15　D32-05　マルチバンド式リアルタイム震度計を用いた地震動の解析
°山口耕作（(株)シグネット）

16：30　D32-06　SELENE2 における月震計測
°小林直樹（ISAS）・村上英記（高知大）・白石浩章（ISAS）・竹内　希（ERI）・田中　智（ISAS）・飯島祐一（ISAS）・小川和津（ISAS）・早川雅彦（ISAS）・岡元太郎（東工大）・久家慶子（京大）・鹿熊英昭（中央大）・石原　靖（JAMSTEC）・荒木英一郎（JAMSTEC）・趙　大鵬（東北大）・谷本俊郎（UCSB）ほか

16：45　D32-07　極限環境における観測をめざしたレーザー干渉式広帯域地震計の開発
°堀　輝人・新谷昌人（東大地震研）・鹿熊英昭（地震予知振興会）・小林直樹・白石浩章・岡田達明・佐藤毅彦（JAXA）

17：00　D32-08　3 次元速度構造であらかじめ計算した走時データを使用した震源決定法　その 2
°関口渉次（防災科研）

17：15　D32-09　独立成分分析（ICA）による地震波の解析
°高橋宏政（東大新領域）・鷹野　澄（東大情報学環・東大地震研）

17：30　D32-10　地象監視システム科学ことはじめ
°東田進也・鶴岡　弘（東大地震研）・山本俊六（鉄道総研）・青井　真（防災科研）

10 月 21 日（水） 18：00～19：00 ポスター会場

ポスターセッション（P1-01～P1-81）

2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震，強震動・地震災害

P1-01 駿河湾の地震（平成 21 年 8 月 11 日；M 6.5）の概要
°舟崎 淳・山田安之（気象庁地震火山部）

P1-02 平成 21 年 8 月 11 日に発生した駿河湾の地震（M 6.5） ―周辺で発生した過去地震との類似性―
°福満修一郎・舟崎 淳・武田清史（気象庁地震火山部）・石垣祐三（横浜地方気象台）

P1-03 2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震の概要と過去の地震活動
°小原一成・浅野陽一・木村尚紀・汐見勝彦・松原 誠・上野友岳・エネスクボグダン・木村武志・野口伸一（防災科研）

P1-04 2009 年 8 月 11 日駿河湾地震はフィリピン海スラブ内で発生したのか？
°加藤愛太郎・酒井慎一・金沢敏彦・岩崎貴哉（東大地震研）

P1-05 2009 年 8 月駿河湾地震の前に見られた応力集中
°松村正三（防災科研）

P1-06 2009 年駿河湾の地震の余震を用いた応力場解析
°今西和俊（産総研）・武田直人（産総研）・松下レイケン（産総究）

P1-07 2009 年駿河湾の地震に誘発された焼津沖の地震活動の意味
°鎌谷紀子（気象大学校）・勝間田明男（気象研究所）

P1-08 2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震のプレート間固着に与える影響の考察
°落 唯史・加藤照之（東大地震研）・里村幹夫（静岡大）・原田 靖（東海大）

P1-09 比較的短い時間間隔で発生した 2 つの大きな地震のマグニチュード決定 ―遠地 P 波を用いて―
°原 辰彦（建築研究所）

P1-10 Determination of broadband moment magnitude (Mwp) for August 11, 2009 Suruga-Bay earthquake
Barry Hirshorn（PTWC）・°坪井誠司（海洋研究開発機構）

P1-11 静岡－石廊崎構造線の地震に於ける月の位相の近接
°末 芳樹（なし）

P1-12 2009 年 8 月 11 日，駿河湾地震前後の電磁気現象及び地震活動度変化
°長尾年恭（東海大）・佐柳敬造（東海大）・竹内昭洋（東海大）・原田 誠（東海大）・中村憲二（東海大）・富永紘次（東海大）・織原義明（東海大）・上田誠也（東海大）・川上貴之（時事通信）・野田洋一（REIC）・冨澤祐樹（東京学芸大）・渡辺泰行（東京学芸大）・鴨川 仁（東京学芸大）

P1-13 駿河湾の地震（2009 年 8 月 11 日，M 6.5）に伴う地殻変動から推定した地震断層モデル
°小沢慎三郎・飛田幹夫・今給黎哲郎

P1-14 GEONET の 1 Hz データで見た駿河湾の地震の変位波形
°中村悠希・橋本 学（京大防災研）・宮崎真一（京大院理）

P1-15 東海稠密アレイ GPS から見た 2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震
°加藤照之（東大地震研）・福田淳一（東大地震研）・落 唯史（東大地震研）・横田裕輔（東大地震研）・里村幹夫（静岡大）・請井和之（静岡大）・原田 靖（東海大）・佐藤一敏（日本 GPS ソリューションズ(株)）

P1-16 2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震後の地下水位・地下水温変化
°松本則夫・北川有一・高橋 誠・小泉尚嗣（産総研）

P1-17 岐阜県東濃地域で観測された 2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震（M 6.5）に伴う地下水位変化と歪地震動
°浅井康広・石井 紘（東濃地震科学研究所）

P1-18 箱根強震ネットワークを用いて推定した 2009 年 8 月 11 日駿河湾の地震の震源過程
°本多 亮・行竹洋平・吉田明夫（神奈川温地研）

P1-19　近地強震波形を用いた駿河湾の地震（平成 21 年 8 月 11 日 ; Mj 6.5）の震源過程解析
°上野　寛（気象庁地震火山部）・迫田浩司（気象庁地震火山部）・吉田康宏（気象研究所）
P1-20　2009 年駿河湾を震源とする地震の震源モデルの構築と波形シミュレーション
°倉橋　奨（愛知工大）・入倉孝次郎（愛知工大）・宮腰　研（地域地盤環境研）・正木和明（愛知工大）
P1-21　2009 年駿河湾の地震による Lg 波の伝播と加速度分布
°武村俊介（東大地震研）・小林雅裕（東大地震研）・古村孝志（東大地震研/東大情報学環）・
前田拓人（東大地震研/東大情報学環）・野口科子（東大地震研/東大情報学環）・
竹本帝人（東大地震研）
P1-22　2009 年駿河湾の地震の短周期レベルと距離減衰特性
°佐藤智美（清水建設）
P1-23　2009 年 8 月 11 日駿河湾沖の地震（Mj＝6.5）による東京湾岸の長周期地震動
°植竹富一（東京電力）・引間和人（東京電力）
P1-24　2009 年 8 月 11 日駿河湾で発生した地震の 3 次元 HOT-FDM による波動伝播シミュレーション
°中村武史（JAMSTEC）・竹中博士（九大）・岡元太郎（東工大）・金田義行（JAMSTEC）
P1-25　駿河湾を横断する津波の往復運動
°阿部邦昭（日歯大新潟短大）
P1-26　2009 年 8 月 11 日駿河湾地震（M 6.5）で発生した津波の解析
°谷岡勇市郎・グスマンアディティア（北大・理）
P1-27　2009 年 8 月 11 日・駿河湾の地震における揺れ・備え・被害の実態解明のためのアンケート調査
°林　能成・鈴木雄大・牛山素行・小山真人・里村幹夫（静岡大学防災総合センター）・
しずおか防災コンソーシアム

強震動・地震災害

P1-28　「全国地震動予測地図」の公表について
°北川貞之（文部科学省）
P1-29　「長周期地震動予測地図」2009 年試作版の公表について
°北川貞之（文部科学省）
P1-30　地震動予測地図における新旧手法による震度予測結果の比較
°森川信之・藤原広行（防災科研）
P1-31　活断層で発生する大地震を対象とした地震瞬時速報システムの開発計画
°中村洋光・功刀　卓・青井　真・藤原広行・堀内茂木（防災科学技術研究所）
P1-32　地震瞬時速報システムのための強震観測施設及びデータ処理の概要
°功刀　卓・中村洋光・青井　真・安達繁樹・内藤昌平・藤原広行（防災科研）
P1-33　加速度応答スペクトルの距離減衰式を用いた水平動・上下動における上盤効果の検討
°塚越　大・纐纈一起・三宅弘恵（東大地震研）
P1-34　正断層の地震における断層上盤効果の基礎的検討
°内山泰生・糸井達哉（大成建設）
P1-35　長周期地震動（1-15 秒）の経験的評価（3）
°湯沢　豊（東電設計）・工藤一嘉（日本大学・東電設計）
P1-36　地震波形モデリングによる 2004 年新潟県中越地震の震源域周辺の 3 次元速度構造モデルの改良
°田島礼子・纐纈一起（東大地震研）・田島文子（ミュンヘン大学）・引間和人（東京電力）・三宅弘恵（東大地震研）
P1-37　F-net 広帯域地震観測網連続記録を用いた地震波干渉法による西南日本の地殻速度構造の推定（1）
°山下佳穂里・浅野公之・岩田知孝（京大防災研）
P1-38　大阪堆積盆地における 2004 年紀伊半島沖の地震の強震動シミュレーション
°大西良広（地盤研究財団）
P1-39　糸魚川―静岡構造線断層帯における強震動予測
°石瀬素子・三宅弘恵・纐纈一起・岩崎貴哉（東大地震研）・渡辺基史・早川　崇（大崎総研）

P1-40　震源インバージョンに基づいた断層幅と地震発生層の層厚に関する検討
°宮腰研・井上直人（地盤研究財団）・入倉孝次郎（愛知工大）・釜江克宏（京大原子炉）
P1-41　強震記録から推定された 1964 年新潟地震の震源過程
°芝　良昭（電力中央研究所）・植竹富一（東京電力）
P1-42　四川大地震の気象庁計測震度による震度分布
°石川有三（気象庁地磁気観測所）・顧　林生（清華大学）・石垣祐三（横浜地方気象台）
P1-43　2008 年ブン川地震の遠地・強震波形から推定される震源過程
°横田裕輔・纐纈一起（東大地震研）・引間和人（東京電力）・王　自法（工程力学研究所）
P1-44　Stochastic Finite-Fault Modeling of 12 May 2008, M7.9 Wenchuan, China, Earthquake
°Hadi Ghasemi, Yoshimitsu Fukushima, Kazuki Koketsu (University of Tokyo),
Wang , and Hiroe Miyake (University of Tokyo)
P1-45　余震分布と地震波形の解析による 2008 年岩手・宮城内陸地震の震源断層面の検討
°筧　楽麿（神戸大・理）・原田智也（東京大・地震研）
P1-46　2008 年岩手・宮城内陸地震の震源過程（2）: 震源過程インバージョン解析における resolution matrix を用いた信頼性評価
°引間和人（東京電力技開研）・纐纈一起（東大地震研）
P1-47　茨城県沖で発生した 2008 年 5 月 8 日の地震（MJMA 7.0）と 1982 年 7 月 23 日の地震（MJMA 7.0）の震源過程の比較
°瀧口正治・浅野公之・岩田知孝（京大防災研）
P1-48　繰り返すスラブ内地震（2）
°丸山岳朗・纐纈一起・三宅弘恵（東大地震研）・松原　誠（防災科研）
P1-49　2003 年十勝沖地震の最大余震による強震動特性
°前田宜浩（北大理）・高井伸雄・笹谷　努（北大工）
P1-50　震源深さの違いによる震源放射特性の影響の現れ方
°三島健吾・泉谷恭男（信州大工）
P1-51　東北地方の地殻内地震における初期微動と主要動の震源・伝播経路・サイト増幅特性
°糸井達哉・内山泰生・山本　優・長島一郎（大成建設）
P1-52　Qs 値の幾何減衰項依存性に関する考察　―三重県で発生した中規模地震を例として―
°大堀道広・中村武史（海洋研究開発機構）
P1-53　Separation of intrinsic and scattering attenuations in the southern Korean Peninsula
°Sung Kyun Kim (Chonnam National University, Korea)
P1-54　最大速度の距離減衰式を用いた震度観測点の観測点補正値の改良
°岩切一宏・干場充之（気象研）・森川信之（防災科研）
P1-55　地震動強さ即時評価の精度向上のための諸検討
°他谷周一・中嶋　繁（JR 東海）・司　宏俊・高浜　勉・橋本光史（(株)構造計画研究所）
P1-56　PGV gradients as an estimator of seismic damage to lifelines ; Application to the 2004 Niigata-ken Chuetsu earthquake
°Nelson PULIDO (NIED),Hisakazu SAKAI (Hiroshima Institute of Technology),
Kouichi HASEGAWA (OYO corporation)
P1-57　地震防災情報伝達の迅速化―リアルタイム震度計を用いた，単独点のＰ波検知と高密度観測点の双方向通信による―
°神定健二・稲寺正由・篠原芳紀・畠山浩幸・野々村義雄・松下直史（高見沢サイバネ）
P1-58　K-NET95 型強震計の有効活用に関する検討　―安価なデータロガーを利用したリアルタイム強震観測システムの構築―
°赤澤隆士（地盤研究財団）・荒木正之（セントラル）・伊藤貴盛・鷹野　澄（東京大学）
P1-59　携帯電話を用いた三段階震度計の提案
°香川敬生（鳥取大学）

P1-60　IT 強震計でみた地震時の複数建物の揺れの比較

°鷹野　澄・伊藤貴盛（東大）

P1-61　強震観測に向けた MEMS 加速度センサの観測性能評価

°内藤昌平・功刀　卓・中村洋光（防災科学技術研究所）

P1-62　「東海・東南海・南海地震の連動性評価研究」における地域研究会の取組み

°金田義行・大堀道広・馬場俊孝・藤森英俊・石井利枝（海洋研究開発機構）・小柳津昌久（日本海洋事業）

P1-63　南海地震の地殻変動による高知市の海抜ゼロメートル地帯の拡大

°馬場俊孝・金田義行（海洋研究開発機構）

P1-64　SAR 干渉解析による地表変位と八ヶ川沿いの水文地形特性および履歴の関係（2007 年能登半島地震）

°齊藤隆志・松波孝治・福島　洋（京大防災研）

地震先行過程

P1-65　南アフリカ大深度金鉱山で発生した地震（M 2.1）に先行する AE の震源再決定（2）

°渡辺貴善（東北大）・直井　誠（東大地震研）・矢部康男（東北大）・中谷正生（東大地震研）・JAGUARS

P1-66　歪計から 20 m で発生した M2 の断層滑り方向延長部で続発した M～2 地震に関連する歪変化　―南アフリカ Mponeng 金鉱山

°桂　泰史・小笠原　宏・安武剛太・川方裕則・山本覚仁（立命館大学）・中谷正生・直井　誠（東京大学）・矢部康男（東北大学）・石井　紘（TRIES）・E. Pinder（ISSI）・G. Morema（Seismogen CC.）・JAGUARS

P1-67　2009 年 7 月 22 日室戸岬沖の地震（M 4.6）に関連した地下水位・地殻歪変化

°北川有一・板場智史・松本則夫・小泉尚嗣（産総研活断層セ）

P1-68　歪観測による短期的スロースリップイベントのモニタリング

°板場智史・大谷　竜・北川有一・小泉尚嗣（産総研活断層セ）

P1-69　プレート間地震サイクルを通じたスロースリップイベントの数値モデリング　―大地震に先行する発生様式の変化―

°松澤孝紀・廣瀬　仁（防災科研）・芝崎文一郎（建築研）・小原一成（防災科研）

P1-70　岩手宮城内陸部地震前における東北地域での地震活動の変化

°熊澤貴雄（総研大）・尾形良彦（統計数理研究所）・遠田晋次（京大防災研）

岩石実験・地殻応力

P1-71　弾性波計測による破壊途上の岩石試料内部の不均質構造推定の試み

°奥野喬也・川方裕則・吉光奈奈（立命館大学）・高橋直樹（三井住友建設）・高橋　学（産総研）

P1-72　摩擦熔融時に発生する断層振動の時間変化

°溝口一生（防災科研）・福山英一（防災科研）・廣瀬丈洋（JAMSTEC）

P1-73　高温・低速度領域における蛇紋岩の摩擦滑り挙動 : その 1　実験概要

°高橋美紀（産総研）・上原真一（産総研）・溝口一生（防災科研）・増田幸治（産総研）

P1-74　高温・低速度領域における蛇紋岩の摩擦滑り挙動 : その 2　摩擦構成則パラメータの温度・速度依存性

°上原真一（産総研活・地セ）・高橋美紀（産総研活・地セ）・武田直人（産総研活・地セ）・溝口一生（防災科研）・増田幸治（産総研活・地セ）

P1-75　野島分岐断層・破砕帯構成物質の表面積測定 : 断層破砕帯形成に必要なエネルギーの推定に向けて

°澤井みち代（広大理）・東郷徹宏（広大院理）・嶋本利彦（広大院理）

掘削科学と地震学

P1-76　地震・津波観測監視システムの試験運用開始にむけて

°金田義行・川口勝義・荒木英一郎・佐久間淳・金子　将・松本浩幸・中村武史・大堀道広・神谷眞一郎・有吉慶介・堀　高峰・馬場俊孝（海洋研究開発機構）

P1-77　2001 年箱根群発地震活動に伴う地殻変動による神奈川県西部地震への影響

°原田昌武・棚田俊收・行竹洋平（温地研）

P1-78　野島断層周辺における不均質構造の時間変化
°小林由実・田所敬一（名大環境学）
P1-79　掘削科学による活断層研究―応力分布と断層微細構造―
°小村健太朗・山下太・松田達生（防災科研）
P1-80　南海掘削ステージ 2 Exp. 319 にて採取されたコア試料のヘリウム同位体比
°堀口桂香・松田准一（阪大・院・理）・T. Wiersberg（GFZ）・下　良拓（阪大・院・理）・田村　肇・熊谷英憲・鈴木勝彦・斎藤実篤・木下正高（JAMSTEC）・Exp. 319 乗船研究者
P1-81　化学反応速度論を用いた，コサイスミック化学反応で消費されるエネルギーと剪断応力の推定
°濱田洋平（大阪大学）・廣野哲朗（大阪大学）・池原　実（高知大学）・東　垣（JAMSTEC）・Sheng-Rong Song（国立台湾大学）

10 月 22 日（木）　16：45～17：45　ポスター会場

ポスターセッション（P2-01～P2-92）

地震予知

P2-01　「規則微動」の発見と内陸直下型地震予測事例
°今津美智子（無所属）
P2-02　地震に関係する VHF 散乱波の強度と自然雑音強度を分離する観測法
°森谷武男・茂木　透（北大理地震火山）
P2-03　確率の尺度調整問題
°大内　徹（神戸大都市安全）
P2-04　確率論的地震動予測地図における地震活動モデルの検定
°井元政二郎・藤原広行・山本菜穂子（防災科研）・D. Rhoades（GNS, NZ）
P2-05　G-R モデルおよび改良 G-R モデルを用いた地震発生予測
°弘瀬冬樹・前田憲二（気象研）
P2-06　Modeling Temporal Variations of Seismicity Parameters to Forecast Earthquake Rates in Japan
°Christine Smyth (DPRI, Kyoto University), Jim Mori (DPRI, Kyoto University)

テクトニクス

P2-07　志摩海脚の断層変形と遠州断層系の活動
°芦　寿一郎・小嶋孝徳・中村恭之・川添友彦（東京大学）・斎藤実篤（海洋研究開発機構）
P2-08　四国海盆の拡大により変形した西南日本外帯の地殻構造
°高橋雅紀（産総研地質情報）

地殻ダイナミクスの謎：私にはここが分からない

P2-09　糸魚川―静岡構造線断層帯の深部形状
°岩崎貴哉（東大地震研）・池田安隆（東大理）・狩野謙一（静岡大）・伊藤谷生（千葉大）・佐藤比呂志（東大地震研）・小林里紗（東大地震研）・東中基倫（地科研）・阿部　進（地科研）・須田茂幸（地科研）・川中　卓（地科研）
P2-10　北部フォッサマグナ，糸魚川－静岡構造線地域の地質構造
°金　幸隆・岩崎貴哉（東大地震研）
P2-11　日本周辺の地震発生層・等価弾性層・磁性体層の分布
°田中明子（産総研）

地殻変動・GPS・重力

P2-12　GPS および InSAR データに基づく 2008 年岩手・宮城内陸地震震源域周辺における定常－非定常地殻変動のモデル化
°大園真子（東北大）・Rob McCaffrey（RPI）・太田雄策・三浦　哲・飯沼卓史・立花憲司・佐藤俊也（東北大）

P2-13　2005 年 8 月 16 日の宮城県沖の地震（M, 7.2）の震源域における固着はすでに回復したのか？
°飯沼卓史・三浦　哲・松澤　暢・太田雄策・大園真子（東北大・理）

P2-14　東海地震のアスペリティの推定とひずみの時間変化
°請井和之（静大大学院）・里村幹夫（静大）・松村正三（防災科研）・島田誠一（防災科研）・加藤照之（東大地震研）・原田　靖（東海大）

P2-15　熊野灘と琉球海溝における海底地殻変動観測
°宮田皓司・田所敬一・渡部　豪（名大環境）・中村　衛（琉大理）・安藤雅孝（中研院）・杉本慎吾・奥田　隆（名大環境）・武藤大介（気象庁）

P2-16　2 次元有限要素法による琉球海溝北部の固着率推定の試み
°中尾　茂・前野　直・後藤和彦（鹿大院理工）

P2-17　南海トラフにおける海底地殻変動観測と最適な観測点配置の検討
°渡部　豪・田所敬一・杉本慎吾・奥田　隆・宮田皓司（名古屋大学）・久野正博（三重県科学技術振興センター）

P2-18　傾斜記録を用いた短期的スロースリップイベントの自動検出
°木村武志（防災科研）・小原一成（防災科研）・木村尚紀（防災科研）・廣瀬　仁（防災科研）

P2-19　GEONET データで見た近畿北部の歪速度異常―最近の状況
°大谷文夫（京大防災研）

P2-20　上賀茂地学観測所での Rebeur-Paschwitz 型傾斜計の発見
°James Mori（京大防災研）・Luis Rivera・Julien Frechet（ストラスブール大）・竹本修三（国際高等研）

P2-21　跡津川断層帯周辺の詳細地殻変動分布
°鷺谷　威（名大・環境）・大園真子（東北大・理）・平原和朗（京大・理）・橋本　学（京大・防災研）・竹内　章（富山大・理工）・細　善信・和田安男・尾上健介・大谷文夫（京大・防災研）・道家涼介（富山大・理工）・小澤和浩・朝日友香（名大・環境）

P2-22　能登半島北部の重力異常
°澤田明宏（金沢大）・本多　亮（北大）・平松良浩・菅谷勝則・広瀬哲也・道中仁志・河野芳輝（金沢大）

P2-23　1891 年濃尾地震の震源断層モデルの再検討
°朝日友香（名大・環境）・鷺谷　威（名大・環境）

P2-24　ALOS/PALSAR で捉えたニュージーランド南島の地震に伴う変動
°橋本　学・福島　洋（京大防災研）

P2-25　フィリピン・マニラ首都圏南部のマリキナ断層における断層クリープの連続観測
°栗田勝実（都立産技高専）・衣笠博善（東京工大）RIMANDO E. Rolly（PHIVOLCS）・PAPIONA L. Kathleen（東京工大，PHIVOLCS）

P2-26　Continuous GPS observation in West-Java, Indonesia : A preliminary report
°N.R. Hanifa, Fumiaki Kimata, Takeshi Sagiya (Nagoya University), Cecep Subarya (National Coordinating Agency for Surveys and Mapping, Indonesia), Hasanuddin Z. Abidin, Irwan Meilano (Institut Teknologi Bandung, Indonesia)

P2-27　地震間地殻変動によるアスペリティ推定の精度評価
°平井　敬・鷺谷　威（名古屋大学環境学研究科）

P2-28　線形・非線形混合逆問題のベイズ的定式化とアルゴリズム
°福田淳一（東大地震研）・Kaj M. Johnson（Indiana University）

P2-29　フォースバランス型加速度計を用いた重力測定のための基礎的検討
盛川　仁（東工大）・°松尾寛子（東工大）・松田滋夫（クローバテック）

P2-30　地球表層流体の荷重変動データベースの構築

°瀧口博士（NICT 鹿島）

地殻構造

P2-31　3 成分地震計 1 個を用いた P 波反射法測線での S 波速度の簡易推定

°大滝壽樹（産総研地質情報）・加野直巳（産総研地質情報）・横倉隆伸（産総研地質情報）

P2-32　レシーバ関数計算手法の高度化（2）

°中川陽一朗・澁谷拓郎（京大防災研）・川方裕則（立命館大理工）・土井一生（京大防災研）

P2-33　レシーバ関数を用いた S 波速度の絶対値の推定方法に関して（2）

°黒瀬正貴・澁谷拓郎（京大・防災研）

P2-34　2003 年十勝沖地震における破壊域と地震波速度構造

°町田祐弥（東大地震研），高波鐵夫（現・カーネギー研）村井芳夫（北大・理），篠原雅尚，中東和夫，桑野亜佐子，山田知朗，望月公廣，金沢敏彦（東大地震研），東　龍介，日野亮太（東北大・理）

P2-35　反射法地震探査データ統合処理によって得られた宮城県北部の不均質構造

°伊藤　忍，山口和雄，横倉隆伸，加野直巳，大滝壽樹，住田達哉（産総研）

P2-36　東北地方のマントルウエッジと海洋地殻の S 波偏向異方性

°神本哲朗・小田　仁（岡大理）

P2-37　庄内平野東縁断層帯周辺域における稠密地震観測（序報）

°松澤　暢・中島淳一・岡田知己・平原　聡・中山貴史・堀修一郎・河野俊夫・鈴木秀市・海野徳仁・長谷川　昭（東北大・理・予知セ）

P2-38　地殻流体の上昇経路の地震波トモグラフィによる推定 : 2008 年岩手・宮城内陸地震およびその周辺域

°岡田知己・中島淳一・海野徳仁・松澤　暢・長谷川　昭（東北大・理）・2008 年岩手・宮城内陸地震合同余震観測グループ

P2-39　相互相関解析に基づく 2008 年岩手・宮城内陸地震震源域およびその周辺域の地殻構造

°高木涼太（東北大院理）・岡田知己（東北大院理）・中原　恒（東北大院理）・海野徳仁（東北大院理）・長谷川　昭（東北大院理）・2008 年岩手・宮城内陸地震合同余震観測グループ

P2-40　2008 年岩手・宮城内陸地震の余震のメカニズム解および起震応力場

°吉田圭佑・岡田知己・伊藤喜宏・飯沼卓史・海野徳仁・長谷川　昭（東北大・理）・2008 年岩手・宮城内陸地震合同余震観測グループ

P2-41　2008 年岩手・宮城内陸地震 : 余震分布・地下構造・発震機構解

°エネスク　ボグダン（1）・武田哲也（1）・浅野　陽一（1）・鈴木　亘（1）・関根秀太郎（1）・行竹洋平（2）・小原一成（1）［1 : 防災科研，2 : 温地研］

P2-42　房総半島沖の地震波速度構造

°中東和夫・新井隆太・真保　敬・桑野亜佐子・山田知朗・望月公廣・篠原雅尚・酒井慎一・金沢敏彦・八木健夫・橋本信一（東大地震研）・一條和宏・三浦　亮（現日本海洋事業）・雨宮晋一郎・村井芳夫・高波鐵夫（北海道大学・現カーネギー研）・鈴木健介・東　龍介・山本揚二朗（現海洋研究開発機構）・伊藤喜宏・日野亮太（東北大学）・水上　遥・水野真理子・佐藤利典（千葉大学）・山下祐亮・植平賢司（九州大学）

P2-43　関東地方における地震テクトニクスに関する研究　―レシーバ関数解析から推定される関東地方のプレート構造―

飯村隆（つくば市役所）・°宮下　芳・河原　純（茨城大理）

P2-44　関東平野中央部の菖蒲坑井（GS-SB-1）における高分解能 VSP 探査

°横倉隆伸・山口和雄・塚本　斉・牧野雅彦・住田達哉・渡邉史郎（産総研地質情報）

P2-45　関東平野中部，行田―菖蒲の浅部地下構造

°山口和雄・伊藤忍・加野直巳・大滝壽樹・楮原京子・住田達哉・横田俊之・岡田真介（産総研）

P2-46　首都直下の不均質構造のイメージング（4）

°中川茂樹・酒井慎一・蔵下英司・加藤愛太郎・萩原弘子・笠原敬司（東大地震研）・棚田俊收（神奈川県温地研）・小原一成（防災科研）・平田　直（東大地震研）

P2-47　伊豆衝突帯東部における 3 次元地震波速度構造
°永井　悟（国立台湾大学）・棚田俊收（神奈川温地研）・新井隆太（東大地震研）・John Suppe（国立台湾大学）
P2-48　レシーバ関数でみた富士山の地下構造
°宮林佐和子・五十嵐俊博・青木陽介・武尾　実（東京大学地震研究所）
P2-49　北部糸魚川・静岡構造線断層帯に沿った DD 法による地殻構造
°パナヨトプロスヤニス（東大地震研）・平田　直（東大地震研）・岩崎貴哉（東大地震研）・佐藤比呂志（東大地震研）・加藤愛太郎（東大地震研）・今西和俊（産総研）・桑原保人（産総研）・長　郁夫（産総研）
P2-50　Hi-net 下山周辺における地震計アレイを用いた森町弾性波アクロス信号の解析
°岩切一宏・吉田康宏・勝間田明男（気象研）・渡辺俊樹・山岡耕春（名大）・國友孝洋（静大理）・熊澤峰夫（名大）
P2-51　鳳来アレイ観測による弾性波 ACROSS 信号の解析
°山崎賢志（名大環境学）・渡辺俊樹（名大環境学）・山岡耕春（名大環境学）・羽佐田葉子（大和探査技術）・中道治久（名大環境学）
P2-52　S 波反射波解析による山崎断層帯周辺における地殻内不均質構造の推定
°吉川幸佑（京大理地球）・西上欽也（京大防災研）
P2-53　Crustal Structure around the Yamasaki Fault System of Japan from High-Resolution Travel Time Tomography
°Andri Dian Nugraha (DPR, Kyoto University, Geophysics Group FTTM-ITB), Shiro Ohmi (DPRI, Kyoto University), Jim Mori (DPRI, Kyoto University), Takuo Shibutani (DPRI, Kyoto University)
P2-54　紀伊半島下の地震波減衰構造
°速水絵里圭・中島淳一・海野徳仁（東北大・理・予知セ）
P2-55　西南日本で発生するスラブ内地震記録で顕著に観測される sP 波を用いた 3 次元地震波速度構造モデルの構築
°林田拓己（広島大・院理）・田島文子（ミュンヘン大）・モリ　ジェームズ（京大防災研）
P2-56　広帯域 MT 法探査から推定された四国西部の地殻構造
°山下　太・小原一成（防災科研）
P2-57　中国地方のモホ面深さ
°勝間田明男（気象研究所）
P2-58　自然地震データから求めた日向灘南部の地震波速度構造
°植平賢司・内田和也・清水　洋（九州大理）・八木原　寛・平野舟一郎・中尾　茂・小林励司・後藤和彦・宮町宏樹（鹿児島大理）・山田知朗・望月公廣・中東和夫・篠原雅尚・金沢敏彦（東大地震研）・日野亮太（東北大理）・馬越孝道（長崎大環境）・合田政次（長崎大水産）
P2-59　母島海山および小笠原海台周辺海域の地震波速度構造
°上村　彩・久保田隆二・西山英一郎（川崎地質）・金田謙太郎・西澤あずさ（海上保安庁）・笠原順三（地科研）
P2-60　小笠原海台の伊豆小笠原島弧への衝突
°高橋成実・小平秀一・野口直人・山下幹也・三浦誠一・佐藤　壮・高橋　努・野　徹雄・海宝由佳・金田義行（海洋研究開発機構）
P2-61　屈折法・広角反射法地震探査による南部伊豆・小笠原島弧火山フロント下と西マリアナ海嶺北端部の地震波速度構造
°佐藤　壮・小平秀一・高橋成実・海宝由佳・金田義行（海洋研究開発機構）
P2-62　佐渡島北西沖における屈折法・広角反射法地震探査
°佐藤　壮・高橋成実・小平秀一・野　徹雄・金田義行（海洋研究開発機構）
P2-63　JAMSTEC「かいれい」「かいよう」による能登半島沖～佐渡沖におけるマルチチャンネル反射法地震探査
°野　徹雄・高橋成実・小平秀一・佐藤　壮・金田義行（JAMSTEC）
P2-64　遠地地震の走時データから見た日本列島下の構造不均質
°簗田高広（東北大予知セ）・趙　大鵬（東北大予知セ）・長谷川　昭（東北大予知セ）

P2-65　Characteristics of the seismogenic layer beneath the Japanese Islands
°Aiymjan Omuralieva, Akira Hasegawa, Junichi Nakajima, Tomomi Okada, and Toru Matsuzawa (Tohoku University)

P2-66　日本列島の周波数別の三次元減衰構造
°関根秀太郎・松原　誠・小原一成（防災科研）

P2-67　減衰 Qs と熱構造
°中村亮一（東電設計）

地盤構造・地盤震動

P2-68　一般理論が切り開く微動アレイの可能性 : 解析ツール BIDO の公開
°長　郁夫・多田　卓（産総研）・篠崎祐三（東京理科大学）

P2-69　CCA 法の為の野外比較実験
°横井俊明（(独)建築研国地センター）・林　宏一（応用地質(株)）

P2-70　一関西観測点（IWTH25）周辺での微動観測結果について
°山田真澄（京大次世代）・山田雅行・羽田浩二（ニュージェック）・大見士朗（京大防災研）・藤野義範・海妻伴之（ニュージェック）

P2-71　微動探査による KiK-net 一関西観測点（IWTH25）周辺における浅部 S 波速度構造の推定
°先名重樹・青井　真（防災科研）・浅野公之・岩城麻子・木村美帆・岩田知孝（京大防災研）・功刀　卓・中村洋光・藤原広行（防災科研）・飛田哲男（京大防災研）・高野征宣（防災科研）

P2-72　地表記録のみで構成する表層地盤の擬グリーン関数
°木下繁夫・田中友香里（横浜市大）

P2-73　伊豆大島におけるコーダ波減衰特性の空間分布推定の試み : 常時微動の自己相関からのアプローチ
°毛利拓治・古本宗充（名古屋大学・環）

P2-74　2008 年茨城県沖の地震（Mj＝7.0）による柏崎刈羽原子力発電所の高密度強震観測記録の水平・上下スペクトル振幅比
°植竹富一・徳光亮一・引間和人（東京電力）・東　貞成・佐藤浩章（電中研）

P2-75　速度構造の不均質強度を指標とした深部地盤のモデル化について　―新潟平野を対象とした基礎的検討―
°佐藤浩章（電力中央研究所）・山中浩明（東京工業大学）

P2-76　Characterization of the duration of seismic ground motions at Osaka sedimentary basin using time domain site effects
°Moises Contreras, Tomotaka Iwata (DPRI, Kyoto University)

P2-77　地震動シミュレーションによる深部地盤構造モデルのやや長周期地震動への影響評価―84 年長野県西部地震, 関東平野北西部の場合―
°山田伸之（福岡教育大）・山中浩明（東京工大総理工）

P2-78　地震記録を用いた琵琶湖地域における 3 次元速度構造モデルの構築
°鈴木晴彦（応用地質 ; 東京工大）・山中浩明（東京工大）

P2-79　重力異常による福井平野および鯖江断層周辺の基盤構造推定
°野口竜也・中谷英史・香川敬生（鳥取大学）・安井　譲（福井工業大学）・小嶋啓介（福井大学）

学校教育と知識普及

P2-80　山形の地震流言と地震予知に対する意識調査
°織原義明（東海大予知セ）・鴨川　仁（東学大物理）・長尾年恭（東海大予知セ）・上田誠也（日本学士院）

P2-81　大地の奏でるメロディ作りの模索～地震動記録の教育的活用のために～
°山田伸之・南　侑希（福岡教育大）

P2-82　京都大学の地球惑星科学関連全学共通科目における地震学教育の現状
°加藤護・石川尚人・小木曽哲・金子克哉（京大院人環）

P2-83　MeSO-net 観測データを用いた学校向けコンテンツの開発―その 2 : 開発 WG の立ち上げと開発方針
°伊東明彦（宇都宮大教育）・笠原敬司・鶴岡　弘・酒井慎一・中川茂樹・大木聖子・平田　直（東大地震研）

次世代の理論地震学と地球内部構造研究

P2-84　東濃地震科学研究所の深部ボアホール観測と理論地震学，特に間隙弾性体理論の適用について
°石井　紘（東濃地震科学研）・浅井康広（東濃地震科学研）・大久保慎人（東濃地震科学研）

P2-85　良質な観測データ取得のための深部ボアホール総合観測
°浅井康広・石井　紘・大久保慎人（東濃地震科学研究所）

P2-86　間隙水圧のモニタリングと間隙弾性理論による地震波の解析
°加納靖之・柳谷　俊（京大防災研）

P2-87　地震波トモグラフィー：観測値・構造の時間変化
°中西一郎・加納靖之

P2-88　外核最下部の有限な剛性率の実体波コアフェーズへの影響
°竹内　希（東大地震研）

P2-89　高感度地震観測網アレイ解析による表面波分散曲線の推定
°齊藤竜彦・松澤孝紀・小原一成（防災科学技術研究所）

P2-90　表面波による上部マントル鉛直異方性の観測可能性
°竹尾明子・川勝　均・西田　究（東大地震研）

P2-91　スペクトル要素法を用いた波形インバージョンによる地球内部構造決定
°坪井誠司・大林政行・東野陽子・末次大輔（海洋研究開発機構）

P2-92　波形合成法を用いた QScS 推定法の再検討
°加藤　護（京大院人環）

10 月 23 日（金）　13：45〜14：45　ポスター会場

ポスターセッション（P3-01〜P3-90）

地震一般・その他

P3-01　2004 年スマトラ・アンダマン地震に伴う群発地震活動の震源再決定
°平塚晋也・佐藤魂夫（弘前大・理工）・古川信雄（建築研）

P3-02　鯖江市付近に認められる地震の低活動域周辺におけるテクトニクス
°岡本拓夫（福井高専）・平野憲雄・竹内文朗・西上欽也・和田博夫（京大防災研）

P3-03　反射法地震探査を用いた海洋微細構造イメージングの現状
°山下幹也・横田華奈子・三浦誠一・小平秀一・深尾良夫（海洋研究開発機構）

P3-04　Subducting Slab Ultra-Slow Velocity Layer Coincident with Silent Earthquakes in Southern Mexico
°Teh-Ru Alex Song (IFREE, JAMSTEC)

P3-05　日本国内および南極昭和基地におけるインフラサウンドパイロット観測と光学ピックアップ式微気圧変動センサーの開発の現状
°石原吉明（国立天文台）・山本真行（高知工科大）・金尾政紀（極地研）

P3-06　IISEE が公開している地震カタログのウェブインターフェースの改良
原　辰彦・°水谷宏光（建築研）

P3-07　御嶽山周辺における潮汐共鳴現象　―Hi-net 高感度加速度計データ―
°田中俊行（東濃地震科研）・田中寅夫（東濃地震科研）・汐見勝彦（(独)防災科研）

P3-08　荒砥沢大規模地すべり地のジオパーク構想と保存について
°松波孝治（京大防災研）・齊藤隆志（京大防災研）・川辺孝幸（山形大地域教育）・籾倉克幹（基礎地盤コ）・大場武雄（ACG）・菅原敏元（ACG）

津波

P3-09　地殻変動連続観測網による津波荷重変形検出とその評価
°高塚晃多・太田雄策・三浦　哲・佐藤忠弘（東北大理予知セ）

P3-10　GPS 波浪計の長周期波高を用いた沿岸津波換算値
°林　　豊（気象研究所）

P3-11　1771 年八重山地震津波の断層モデル
°中村　衛（琉球大理）

P3-12　1963 年千島沖地震の津波波源域
°伊尾木圭衣・谷岡勇市郎（北海道大学）

P3-13　津波波形インバージョンによる 2008 年十勝沖地震のすべり量分布
°上野俊洋（東大地震研）・谷岡勇市郎（北大地震火山セ）・佐竹健治（東大地震研）・金沢敏彦（東大地震研）

P3-14　南海トラフ巨大地震の破壊遅れによる土佐湾沿岸における津波後続波の増幅
°今井健太郎（東大院情報学環）・佐竹健治（東大地震研）・古村孝志（東大院情報学環）

活断層と古地震

P3-15　海浜堆積物の分布高度から推定した榛原低地の完新世の地殻変動
°藤原　治・宍倉正展（産総研活断層・地震セ）・Than Tin Aung（Schlumberger K.K.）

P3-16　御前崎南岸で見られる 1000 年オーダーの隆起イベントの原因
°藤原　治（産総研活断層・地震セ）・平川一臣（北大）・入月俊明（島根大）・長谷川四郎（熊本大）・長谷義隆（御所浦白亜紀博物館）・内田淳一（応用地質(株)）・阿部恒平（MT　Brain(株)）

P3-17　活断層の同時活動が発生する確率について
°吾妻　崇（産総研　活断層・地震研究センター）

P3-18　明治以降に南関東で発生した M7 級地震―30 年間の発生確率 70% の根拠となった 5 地震について―
°石辺岳男・西山昭仁・佐竹健治（東大地震研）・島崎邦彦（震災予防協会）

P3-19　「本朝地震記　信州大地震　御代官御届ヶ書之写」の紹介
°棚田俊收（神奈川温地研）・伊東　博（神奈川温地研）

地震の理論・解析法

P3-20　板を伝播する S 波
°大内　徹（神戸大都市安全

P3-21　亀裂が非常に密に分布する断層破砕帯中の線震源からの波動伝播
°村井芳夫（北大理）

P3-22　GPGPU を用いた地震波伝播計算の試み
°岡元太郎（東工大）・竹中博士（九州大）

P3-23　時間領域地震波形計算手法の簡単な性能評価
°水谷宏光（建築研究所，東大）・ゲラーロバート（東大）

P3-24　MPS 弾性解析における断層のモデル化手法の検討
°坂本登史文（京大理地惑）・平原和朗（京大理地惑）

P3-25　広帯域 P 波モーメントマグニチュード（Mwp）の精度に関する数値実験
°原　辰彦（建築研究所）・西村直樹（筑波大生命環境）

P3-26　地震波干渉法を用いた震源間を伝わる実体波の抽出
°利根川貴志・西田　究（東大地震研）

P3-27　地震波振幅の散乱特性を利用した震源決定手法とその火山監視における有効性
°熊谷博之（防災科研）・前田拓人（東大総合防災情報）・中野　優（防災科研）・マリオ・ルイス（IG-EPN）・パブロ・パラシオス（IG-EPN）

P3-28　MeSO-net に記録された脈動記録を用いた関東平野 S 波速度構造の推定
°西田　究・利根川貴志・中川茂樹・酒井慎一・笠原敬司（東大地震研）・棚田俊收（温地研）・小原一成（防災科研）・平田　直（東大地震研）

地震計測・処理システム

P3-29　地震探査コミュニティの形成を目指して
°小林直樹，白石浩章（ISAS），荒木英一郎，末次大輔，石原　靖，杉岡裕子（JAMSTEC），新谷昌人，堀輝人，栗田　敬（ERI），鹿熊英昭（中央大），村上英記（高知大），岡元太郎（東工大），石原吉明，佐々木晶（NAO）ほか

P3-30　レーザー干渉式広帯域地震計の性能評価
°新谷昌人・堀　輝人（東大地震研）

P3-31　次世代の広帯域海底地震計の開発
°塩原　肇・金沢敏彦・篠原雅尚・一瀬建日（東大地震研）・杉岡裕子・伊藤亜妃（海洋研究開発機構）

P3-32　ボアホールタイプの広帯域地震計 CMG-3TB のノイズレベル
露木貴裕・°三上直也・大塚仁大（気象庁精密地震観測室）

P3-33　地震計鉛直アレイを用いた深部低周波微動観測システムにおける観測点特性
°武田直人・今西和俊・小泉尚嗣・高橋　誠・松本則夫（産総研）

P3-34　首都圏地震観測網（MeSO-net）の展開
°笠原敬司・酒井慎一・森田裕一・平田　直・鶴岡　弘・中川茂樹・楠城一嘉・蔵下英司（東大地震研），小原一成（防災科研），棚田俊收（神奈川県温泉地学研究所）

P3-35　能動モニタリングのための直線加振機の実験
°山岡耕春（名大環境）・渡辺俊樹（名大環境）・山崎賢志（名大環境）・道下剛史（名大環境）・小林由実（名大環境）・生田領野（静大理）・國友孝洋（静大理）

P3-36　ベトナムにおけるテレメータ広帯域地震観測網の構築
°石原　靖・幸　良樹・田中　聡（JAMSTEC）・N.Q. Zung（ベトナム IGP）・海半球ネットワーク運用グループ

P3-37　北海道東方・千島列島域における地震の震源決定のための走時計算法の検討
°勝間田明男（気象研究所）・山本剛靖・松山輝雄・平山達也・新山亮二・塩谷栄吉・山崎一郎・佐鯉央教・笹部忠司・小木曽　仁（札幌管区気象台）・菅ノ又淳一（網走地方気象台）・山本　麦（帯広測候所）

P3-38　緊急地震速報体験データベースの開発
°鶴岡弘（東大地震研）

地球及び惑星の深部構造と物性

P3-39　中国東北部における広帯域機動地震観測計画：NECESSArray の現状
川勝　均（東大地震研）・°田中　聡（海洋研究開発機構〕・宮川幸治（東大地震研）・出原光暉（東大地震研）・利根川貴志（東大地震研）・入谷良平（東大地震研）・大林政行（海洋研究開発機構）

P3-40　Thickness of oceanic lithosphere and its relation with age
Prakash Kumar, °Hitoshi Kawakatsu (ERI)

P3-41　プチスポット下の上部マントル不連続面
°志藤あずさ・末次大輔・杉岡裕子・伊藤亜妃（JAMSTEC）・塩原　肇・金沢敏彦（東大地震研）

P3-42　地震波形インバージョンによる中央アジア下 D”層内 S 波速度構造
°小西健介（東大地惑）・河合研志（東工大地惑・パリ地球物理研究所）・ロバートゲラー（東大地惑）・冨士延章（東大地惑）

P3-43　太平洋広域低速度領域北端の S 波速度構造
°藤亜希子・深尾良夫（JAMSTEC）

地震発生の物理

P3-44　On-fault dense arrays to monitor earthquake preparation and generation and exhuming hypocenter in SA gold mines
°H Ogasawara (Rits. U.), M Nakatani (U. Tokyo), Y Yabe (Tohoku U.), S K Murphy (AnglogoldAshanti), G van Aswegen (ISS International) , H Kawakata (Rits. U.), H Moriya (Tohoku U.), M Naoi (U. Tokyo), N Yoshimitsu (Rits. U.), X Lei (AIST), SeeSA, SATREPS

P3-45　南アフリカ金鉱山 M2 震源域における高周波数サンプリングでの至近距離 3D アレー観測
°和田直也（立命館大学）・中谷正生（東京大学）・矢部康男（東北大学）・直井　誠（東京大学）・宮川幸治（東京大学）・小笠原宏（立命館大学）・川方裕則（立命館大学）・安武剛太（立命館大学）・吉光奈奈（立命館大学）三宅弘恵（東京大学）・井出　哲（東京大学）・五十嵐俊博（東京大学）

P3-46　Teleseismic Waveform Inversion for the Source Model of the 2009 LAquila, Italy, Earthquake
°Natalia Poiata, Kazuki Koketsu, and Hiroe Miyake, (ERI, Univ. of Tokyo)

P3-47　関東地方の相似地震に見られるすべり速度の分布
°木村尚紀・武田哲也・小原一成（防災科研）・笠原敬司（東大地震研）

P3-48　愛知県豊田市における深部低周波地震の立体アレー観測
°鈴木貞臣・大久保慎人（東濃地震科研）・今西和俊・北川有一・武田直人（産総研）

P3-49　紀伊・東海地域の深部低周波微動活動における地球潮汐のトリガー作用
°田中佐千子・小原一成（防災科研）

P3-50　四国西部における低周波微動活動を用いた短期的スロースリップイベントによる応力変化の推定
°中田令子（海洋研究開発機構）・須田直樹（広島大院理）・堀　高峰（海洋研究開発機構）・田中佐千子（防災科研）

P3-51　寒天ゲルを用いた動的破壊伝播実験
°桑野　修・平野史朗・藤田哲史・渡辺泰史・吉田真吾・亀　伸樹・中谷正生（東大地震研）

P3-52　高分子ゲルを用いたゆっくり地震のモデル実験
°山口哲生（東大工）・森下真年（東大工）・土井正男（東大工）・堀　高峰（JAMSTEC）・阪口　秀（JAMSTEC）

P3-53　間隙流体圧上昇と摩擦係数急減とどちらが実断層の高速摩擦挙動を支配するか？　―一般的表現を用いた場合分けの試み―
°三井雄太（京大理）

P3-54　Arrest and Re-Initiation of Dynamic Rupture Propagation at Material Heterogeneities
°Koji UENISHI (Res. Ctr. for Urban Safety and Security, Kobe University),
Kazuhiro TSUJI (Nagoya Railroad Co., Ltd., Nagoya, Japan),
Shohei KOBAYASHI (Dept. of Civil Engineering, Kobe University)

P3-55　Formation of a Dip-Slip Rupture Plane : Boussinesq's Paradox in Fault Mechanics
°Koji UENISHI (Res. Ctr. for Urban Safety and Security, Kobe University),
Satoshi DOI (Department of Civil Engineering, Kobe University)

P3-56　Extreme rupture regime of thrust earthquakes approaching the ground surface
°亀　伸樹（東大地震研）・青地秀雄（仏地質調査所）

P3-57　分岐断層の動的破壊シミュレーションにおける媒質不均質の影響
°田村慎太朗・井出　哲（東大理地惑）・亀　伸樹（東大地震研）

P3-58　拡張有限要素法（X-FEM）を用いた自発的な断層破壊の数値解析手法の開発（2）―媒質境界近傍の応力場―
°和田一範（京大工）・後藤浩之（京大防災研）

P3-59　Finite element simulation of 3D spontaneous rupture
°Yin, J（ASTOM），Kato, N.（東大地震研），Miyatake, T.（東大地震研），Hirahara, K.（京大），Hori, T（JAMSTEC），and Hyodo, M.（JAMSTEC）

P3-60　動的破壊シミュレーションによる 1668 年アナトリア地震の連動可能性の検討
°加瀬祐子（産総研　活断層・地震研究センター）・近藤久雄（日本学術振興会特別研究員）

P3-61　南海トラフ巨大地震発生サイクルのモデリング　―規模に依存した再来間隔の大きな変化―
°兵藤　守（JAMSTEC）・堀　高峰（JAMSTEC）

P3-62　2 次元平面断層上における地震発生サイクルモデルのデータ同化手法開発
°光井能麻（名大環境）・堀　高峰（JAMSTEC・IFREE）・宮崎真一（京大理学）・加藤尚之（東大地震研）

P3-63　プレート境界地震の再来間隔の規模依存性とそのモデル化
°堀　高峰（JAMSTEC）・宮崎真一（京大理）・光井能麻（名大地震セ）

P3-64　プレート内の自壊から始まる南海地震が関係する地域のシステム～沈降できないプレートと単独活動できない東海地震～
°間瀬博文（所属なし）

地球熱学

P3-65　関東地方の地下温度構造の推定
°松本拓己（防災科研）

地震活動

P3-66　気象庁・JUNEC 検測データの初動極性を用いた 1923 年以降に日本で発生した地震のメカニズム解の推定とその特徴
°石辺岳男・鶴岡　弘（東大地震研）

P3-67　CMT 解に見られるセントロイド位置の系統誤差の要因について
°中野　優・山品匡史・熊谷博之・井上　公（防災科研）

P3-68　首都圏で起きた地震カタログの統合に向けた品質評価
°楠城一嘉・鶴岡　弘・笠原敬司・酒井慎一・平田　直（東大地震研）・小原一成（防災科技研）

P3-69　震源分布の相関次元とそのスケーリングおよびマグニチュードの関係
°都筑基博・小山順二（北大理）

P3-70　b 値は震源発生過程や不均質構造と関連性があるのか？
°由井裕一・Jim Mori（京大防災研）

P3-71　初動押し引きから直接精細な応力分布を求める試み
°片尾　浩（京大防災研）

P3-72　深部低周波地震活動活発化時のスラブ内地震活動の b 値変化
°鎌谷紀子（気象大学校）・勝間田明男（気象研究所）

P3-73　日本列島における深部低周波地震の発生状況
°高橋浩晃（北大理）・宮村淳一（気象庁）

P3-74　阿蘇火山の土砂噴出活動に先行した長周期微動活動
°松林弘智・松本拓己・鵜川元雄（防災科研）

P3-75　ETAS モデルと群発地震によるスロースリップの検出可能性
°奥谷　翼（東大・理・地物）・栗原義治・田村慎太朗・井出　哲（東大・理・地惑）

P3-76　海底地震観測によって得られた 1940 年積丹半島沖地震震源域付近における地震活動
°一條和宏・村井芳夫・高波鐵夫（北大地震火山センター）・三浦　亮（日本海洋事業）・町田祐弥（東大地震研）・西村裕一・中村有吾（北大地震火山センター）

P3-77　長期観測型海底地震計ネットワークによる日本・千島海溝会合部における微小地震活動
°桑野亜佐子・篠原雅尚・山田知朗・望月公廣・中東和夫・町田祐弥・酒井慎一・金沢敏彦（東大・地震研）・雨宮晋一郎・村井芳夫・高波鐵夫（現：カーネギー研）（北大・理）・東　龍介・日野亮太（東北大・理）

P3-78　日本海溝前弧域下の地震活動
°山田知朗・中東和夫・桑野亜佐子・望月公廣・篠原雅尚・酒井慎一・金沢敏彦（東大地震研）・高波鐵夫 1（北大院理）・日野亮太（東北大院理）

P3-79　八甲田山における 2009 年 6 月～7 月の微小地震活動
°小菅正裕（弘前大・理工）

P3-80　1996 年日向灘地震（10 月：Mw 6.8，12 月：Mw 6.7）前後の準静的すべりの時間・空間変化
°山下裕亮・清水洋（九大地震火山セ）・後藤和彦（鹿大南西島弧）

P3-81　平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震の震源域における地震発生前の震源分布の再決定
°小鹿浩太・及川雅人・長谷見晶子（山形大理）

P3-82　海陸地震観測網を用いた 2007 年中越沖地震の余震分布

°真保　敬・篠原雅尚・山田知朗・酒井慎一・加藤愛太郎・中東和夫・平田　直・岩崎貴哉・金沢敏彦（東大地震研）

P3-83　首都圏地震観測網（MeSO-net）でとらえた地震波形

°酒井慎一・笠原敬司・楠城一嘉・中川茂樹・鶴岡　弘・蔵下英司・加藤愛太郎・飯高　隆・森田裕一・平田　直（東大地震研）・棚田俊收（神奈川県温地研）・小原一成（防災科研）

P3-84　2009 年箱根カルデラ内における群発地震の震源分布から推定される微細断層構造及びその地学的考察

°行竹洋平，吉田明夫，伊東　博，棚田俊收，原田昌武，本多　亮（神奈川温地研）

P3-85　北陸及び近畿地方の b 値 1997-2008

°竹内文朗・澁谷拓郎・松村一男（京大防）・岡本拓夫（福井高専）

P3-86　南海トラフ西端部日向灘の地震活動

°尾鼻浩一郎・小平秀一・藤江　剛・仲西理子・滝澤　薫・柏瀬憲彦・金田義行（海洋研究開発機構）

P3-87　大分県日田市における地震活動

°植平賢司・松本　聡・松島　健・清水　洋（九大地震火山セ）

P3-88　南西インド洋海嶺，東経 37 度付近における自然地震活動

°水野真理子（千葉大学院・理）・佐藤利典（千葉大学院・理）・北村貴幸（千葉大学院・理）・竹本帝人（東大地震研）・篠原雅尚（東大地震研）・望月公廣（東大地震研）・亀尾　桂（東大海洋研）・中村恭之（東大海洋研）

P3-89　Slip distributions of two large Solomon Islands earthquakes in 1975 estimated using WWSSN Pdiff waveforms

°Sun-Cheon Park (KMA), Jim Mori (Kyoto University)

P3-90　Joint inversion using the teleseismic waveform data and inSAR data for the 2009 Papua Indonesia earthquakes

°乗松君衣（京大防災研）・Jim Mori（京大防災研）・橋本　学（京大防災研）